

令和2年度 実践型地域づくり人材育成プログラム
成果報告会

「課題」を見極めること ～ふつうの暮らしから見えたこと～

2021年2月3日

大阪府茨木市

森 亮人

● プログラム参加による課題認識の変化

Before

- 住民主体による事業がない
- 専門職以外によるサービスの充実
- バスがなくて困っている

現象

要望

After

課題

=「ありたい姿」-「現状」

さらに、課題はずっと変化するので、常に見極め続けていくこと

真因

「問い」&「思考」&「行動」の連続

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。
2

● 総持寺団地における取組

- ・高齢化率 51.3% (24.0%)
- ・世帯人員 1.3人 (2.23人)
- ・H31.3月自治会解散

※ () 内は茨木市平均



■ 総持寺団地

Soujiji danchi

所在地：茨木市総持寺台

入居開始：昭和36年

戸数：1,792戸

住宅形式：1DK～3K

● 気づいたこと・わかったこと



課題	ふつうの暮らし が失われるとき		目指す姿 = 課題 現状 = 課題		対話
現象	マンツーマン ディフェンス		薪集め	必然性	共有
要望	ゾーン ディフェンス		地域資源	暮らしの視点 (生活モデル)	
そもそも	真因	仮説	合意形成	深堀り	共感
もやもや	専門性	Why	手段	言語化	
公権力を 扱う自覚		So What	マクロ・ミクロ 行ったり来たり		 次なる 茨木

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。
4

● 気づいたこと・わかったこと

第1回

第2回

第3回

第4回

講義

ワーク

- ・課題は「現象」や「要望」ではない
- ・支援の目的は「**ふつうの暮らし**」を守り、**取り戻すこと**
- ・個別ケースを検証し、データだけでは見えない、地域課題を見つけていく

実践

薪集め

■（第2回）住民アンケート

- ・楽しみにしていることは日常的事
- ・「あったらいいな」に「**相談（困りごと）できる場所**」はない

■（第3回）介護サービス利用調査、KDB調査、CW聴取

- ・外出はできているが、社会的つながりが希薄 ・健康状態が良くない

■（第4回）ケアプラン確認、包括聴取

- ・**相談ができていない（包括が知られていない）**
- ・社会資源がないわけではない

目指す姿（ありたい状態）

高齢者同士がつながる場があり、緩やかな見守りあいのもとに
いつまでも自分らしく安心して暮らせるまち

目指す姿に対する現状（事実をもとに共有）

- ①相談機関に話が届くときには「大ごと」になっており
自分は困っていないと思いこんでいる高齢者がいる
- ②自治会の解散、民生委員減少、住民同士が
つながる場がない、関係機関も住民ニーズがわからない

本当の課題（解決すべきこと）

・短期的課題

⇒声をあげない見えない高齢者へのアプローチ

・長期的課題

⇒困り事の抽出ルート整備、住民同士のつながり（見守り合い）の場の創出と団地内リーダーの発掘

打ち手

・短期的打ち手

⇒保健師・包括に協力を依頼し、訪問によるアウトリーチ

・長期的打ち手

⇒UR本部に出向き、取り組みの説明と協力依頼を実施

⇒地区福祉委員、周辺機関による団地内サロン創設

● PGを通じて自身やまちに起きた変化－関係者（仲間）

Before

➤ 取組がバラバラで連携が取れていない

● H27～H29

介護保険課

私

- ・認定給付係
- ・管理係

高齢者支援課

- ・〇〇係 ← 総合事業 ※H28～
- ・〇〇係 ← 一般介護予防
- ・〇〇係

After

➤ 状況を共有し、お互いに合意形成できる

● H30～R2

長寿介護課

I

私

II

- ・認定係 ← チェックリスト
- ・給付係 ← 総合事業
- ・介護予防係 ← 一般介護予防
- ・管理係

相談支援課

← 包括
地域ケア会議

地域福祉課

← SC

I

地域支援事業
担当参事

II

介護予防係
職員



- PGを通じて自身やまちに起きた変化 – 自分（個人）

Before

「住民主体による事業がない」

- 現象や要望を「課題」ととらえていた
- 関係者が動いてくれないから、取組みができない
- データだけを見て、課題と考えていた



それってホントの
課題なの??

After

・課題

=「**ありたい姿**」-「**現状**」

- ・関係者を動かすのではなく、**一緒に考える**
- ・現場の声や個別ケースで
ひとりひとりの生活を見る



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

● 参考資料（課題解決検討シート1）

これまでの検討を踏まえて 現時点での設定		なぜ？ （裏付ける具体的事実とともに、文章で説明）
目指す姿	高齢者同士がつながる場があり、緩やかな見守りのもとにいつまでも自分らしく安心して暮らせるまち	・高齢者の「普通の暮らし」が失われる予兆（病気、ADLの低下、死別、つながりの喪失）や、そうなってしまった方に早い段階で周囲が気づき、対応することで重度化を防ぎ、少しでも長く住みなれた団地で暮らせる ・監視ではなく、緩やかな見守りであることで、自分らしく安心して暮せる ・団地内の居場所を基点につなぎ、高齢者の輪が広がっていく
現状 今の総持寺団地	● 足りない点 ① 相談機関に話が届くときには「大ごと」になっている ・自分は困っていないと思いこんでいる高齢者がいる。 ・住民同士がつながる場がなく、情報伝達手段もない。 ② ADL低下により団地に住めなくなり（入浴、掃除、買い物ができない）、施設に入所、転居する等、自分らしい生活ができていない高齢者 ● 良い点 ③ 恵まれた住環境、地域資源を活用して自分らしい生活をしている高齢者もいる。 - 団地内の運動教室をきっかけに友達ができている。	・団地在住の民生委員が1人で、相談機関まで困りごとを抽出するルートが限られている。（住民はURの管理事務所に相談に行く傾向がある） ・ひとり暮らし高齢者に安否確認。実際に相談があったのは233人中1名。大丈夫と返事をしても実際はゴミ屋敷状態に加え脱水症状で危険な状態の方がいた ・包括支援センターが精神的・物理的に遠く、存在の周知も十分ではない可能性 ・自治会が解散し、回覧や掃除もなくなり、情報伝達手段とつながりの場がない ・回覧がなくなってからゴミだしのルールが守られず、ゴミが散らかっている。 ・エレベーターがなく、上層階の高齢者足腰の衰えにより生活が難しくなっている ・団地内で緊急通報装置設置対象者は9割が80歳以上で独居。全ての設置面談記録にふらつきや直近に転倒したという記述あり ・生活習慣が悪かったり、関節痛や骨折が原因で介護サービスを利用 ・住民の入れ替わりにより今の担い手が次を担う若い世代を知らない

● 参考資料（課題解決検討シート2）

これまでの検討を踏まえて
現時点での設定

なぜ？
（裏付ける具体的事実とともに、文章で説明）

団地
の
課題

- 短期的課題
- ① 声をあげない見えない高齢者へのアプローチ
- 長期的課題
- ② 情報伝達不足と情報や困りごとの抽出ルート整備、URや周辺企業の協力・共有
- ③ 住民同士のつながり（見守り合い）の場の創出と団地内リーダーの発掘

- ・住民は困ったら包括ではなく、URの管理事務所に相談する傾向がある
- ・自治会解散による回覧板の喪失、民生委員が少ないことによる住民の声が包括まで届きにくくなっている現状。逆に関係機関からの情報も届きにくくなっている
- ・本人からの相談ではなく周囲からの相談で問題が発覚するケースが多い
- ・URも自治会解散等により、住民の問題で困っている可能性が高い
- ・住民が何に困っていて、何を求めているのかを把握できていない
- ・住民の声を聞くと地域資源や関係機関の存在を知らない高齢者も多い

打ち
手

- ① 保健師・包括に協力を依頼し、訪問によるアウトリーチを行う
- ② URに入った相談を包括につなげる情報伝達ツールを創出・提案。また団地周辺企業への協力依頼も同時に行い、高齢者の食品配達が可能かなど相談
- ③ 現行の運動教室終了後、参加者を集めて「総持寺団地マップ作成イベント」を開催。今あるもの、あったらいいものを住民で共有し、ニーズを把握
- ④ 地区福祉委員、周辺機関によるサロン創設

- ・いま生活の困りごとについて声を上げることができない人に上手くアプローチできれば、相談機関の周知にもなり、「大ごと」になる前に生活が続けることができる
- ・URでとまっていた困りごとや相談事が包括までつながることで、本来であれば包括の支援が必要な人も見つけることができる
- ・ないものねだりではなく、あるもの探し。高齢者のために周辺企業が協力してくれないか。また既にある協力を住民が知らない可能性。それを周知する工夫が必要
- ・今後サロンやイベントを実施していくうえで重要な住民のニーズを把握すると同時に、数人で団地について考え、一つのものを作り上げることで住民意識を高めていく
- ・団地内に集いの場ができることで参加者同士の緩やかな見守りが形成される。そしてそこが情報発信や啓発、参加者の情報共有の場にもなる

● 参考資料 総持寺団地の特徴について

(1) 人口

高齢化率が51.3%と高く、世帯当たりの人員も少ないことから、独居高齢者の割合が高いことが想定される。

	世帯数	人口	世帯人員	高齢者人口	高齢化率
総持寺台	670世帯	874人	1.30人	448人	51.3%
市全体	126,194世帯	281,998人	2.23人	67,651人	24.0%

(2) 団地特有の性質

総持寺団地は、階段のない4～5階建ての賃貸住宅であり、特に高層階は階段昇降ができなくなると居住できない環境のため、入退去の割合が高い。そのため、地域とのつながりや地域に愛着のある居住者が少ないと想定される。

(3) 本市と高槻市域に分断

団地の敷地が本市と高槻市にまたがっており、自治組織や地域資源も団地内で分断されている。

(4) 低所得者が多い

総持寺団地は、家賃が比較的低額（35,200円～61,100円）であり、高齢者家賃助成を受けている世帯も多く、低所得者が多いと推測される。

(5) 情報に触れる機会の減少

自治会がないため回覧板もなく、情報に触れる機会が減少している。

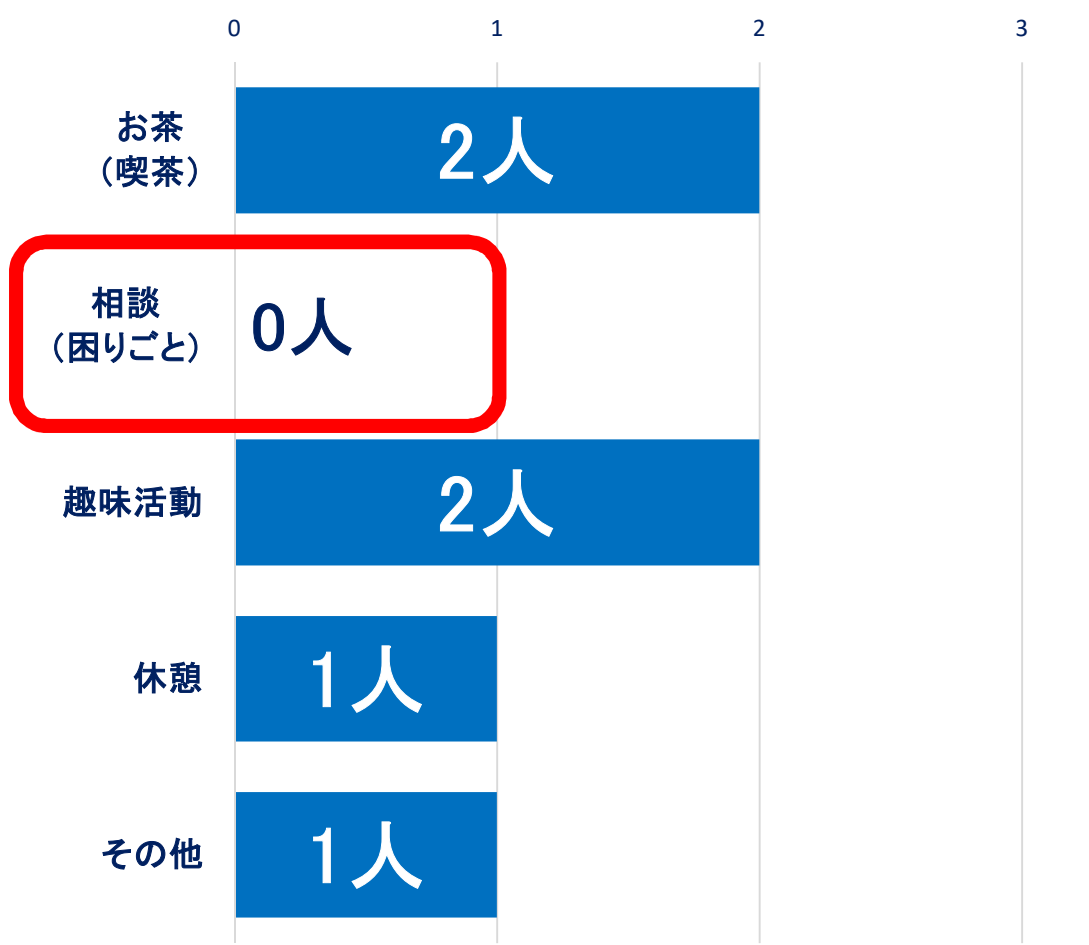
次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。
12

● 参考資料 住民アンケート（第2回資料）

Q5
日々の生活で楽しみにしていることは？
(複数回答可)



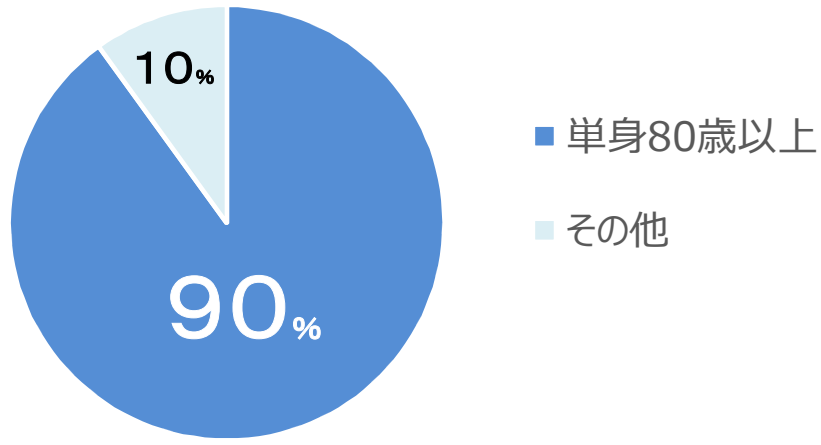
Q6
団地に「あったらいいな」と思うものは？
(複数回答可)



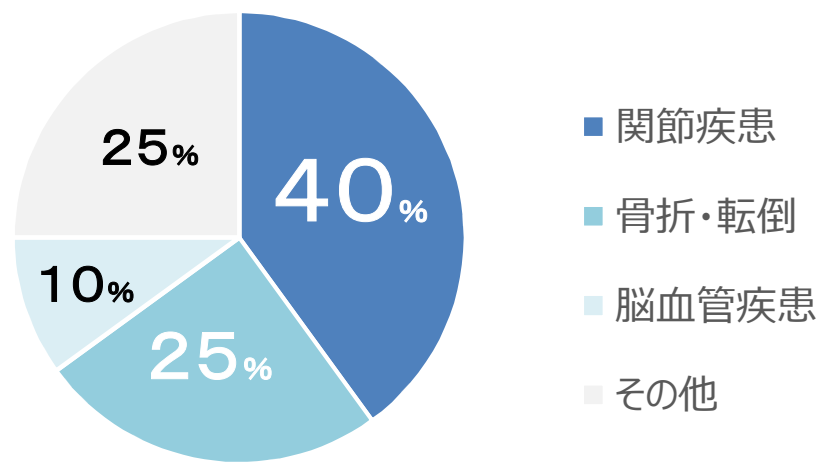
あったらいいなと思うものに、相談できる場所は **0人**

● 参考資料 介護サービス利用調査等（第3回資料）

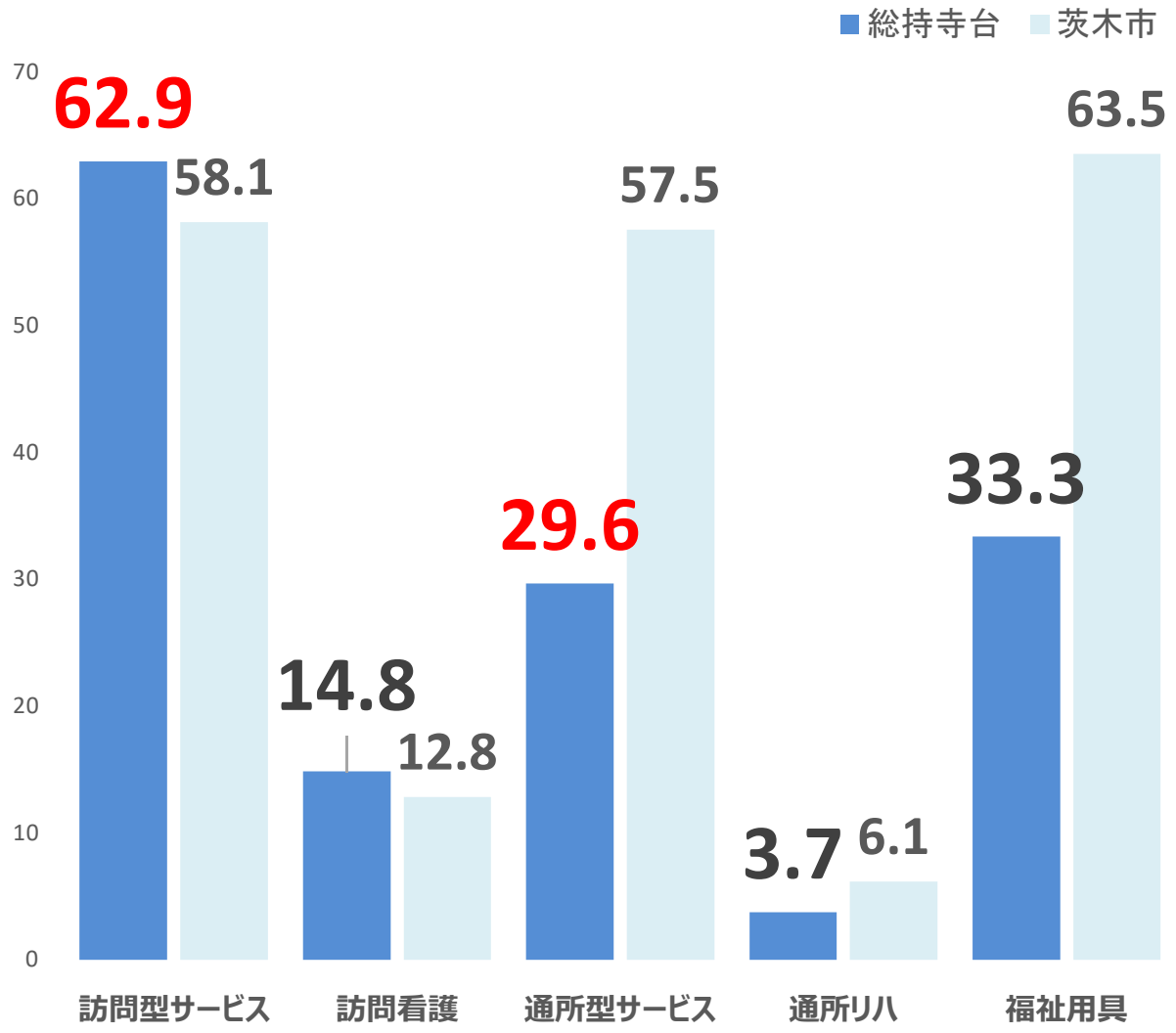
緊急通報装置設置対象者



介護認定のきっかけ



介護サービス利用調査



通所系の利用が少なく、意外と外出はできているのか！？（仮説）

次へ。
茨木には、次がある。
14

● 参考資料 個別事例①（包括職員からの聞き取り）

ケース 1 相談機関に届くときには「大ごと」に



- ①住民⇒UR管理事務所 「トイレが流れなくなりました。修理をお願いします。」
- ②UR管理事務所⇒工務店 「現場を確認して、修理をお願いします。」
- ③工務店⇒管理事務所 「便がトイレにあふれています。修理できる状態ではありません。」
- ④管理事務所⇒包括 「このような方がいるようなのですが、様子を見てくれませんか？」
- ⑤包括 「障害をお持ちの方で、どうすればいいのかわからず困っていたようです。」

要因

- ・団地内の民生委員が1人（高齢）で、住民の困りごとを把握できない
- ・包括等相談機関の周知不足に加えて、相談のハードルが高い

実は、介護認定などではない「**困りごと**」は相談機関へ言いにくい！？

茨木へ。
茨木には、次がある。
15

● 参考資料 個別事例②（包括職員からの聞き取り）



ケース２ 電話では大丈夫と言っていたのに

①包括⇒住民 （電話） 「外出自粛が続きますが、体調は大丈夫ですか？ 困りごとはありませんか？」

②住民 （電話） 「大丈夫です。ありがとうございます。」

③包括⇒住民 （電話） 「包括支援センターの〇〇と申しますので、いつでも電話くださいね！」

数日後…

④家族⇒包括 「久しぶりに訪ねてみたらゴミ屋敷で脱水症状。救急搬送されました。」

要因

- ・住民自身が、「自分は困っていない」と思い込んでいる
- ・困りごとを認識して包括や関係機関に伝える「つなぎ役」がない

生活における「困りごと」を「**困りごと**」と認識できていない！？

茨木へ。
茨木には、次がある。

令和2年度 実践型地域づくり人材育成プログラム
成果報告会



高齢者の“つながり”ある暮らしを考える ー住民エピソードからみえたことー



2021年2月3日

横須賀市

福祉部 地域福祉課 地域力推進係

浅羽 優貴佳

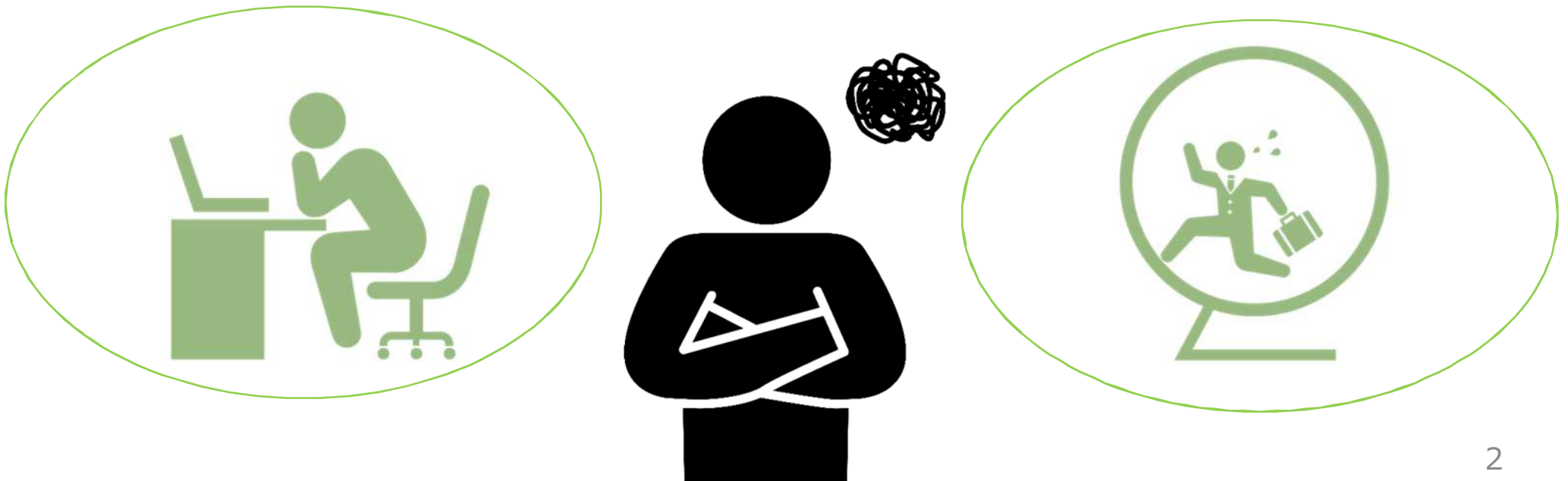




地域で起こっている困りごとやニーズ以前に
「庁内」や「関係者」の関係性を改善しようと思っていた。

- ◆同じ役所内の「他課」と「他係」と一体的に進めたいのに上手くいかない…
- ◆委託するSCと一体的に事業を進めていくにはどうしたらいいのだろう…
- ◆どうしたら協議体の参加者と地域の課題を話せるんだろう…
- ◆民生委員と町内会長の仲が悪いらしい。どうしたら連携できるかな…

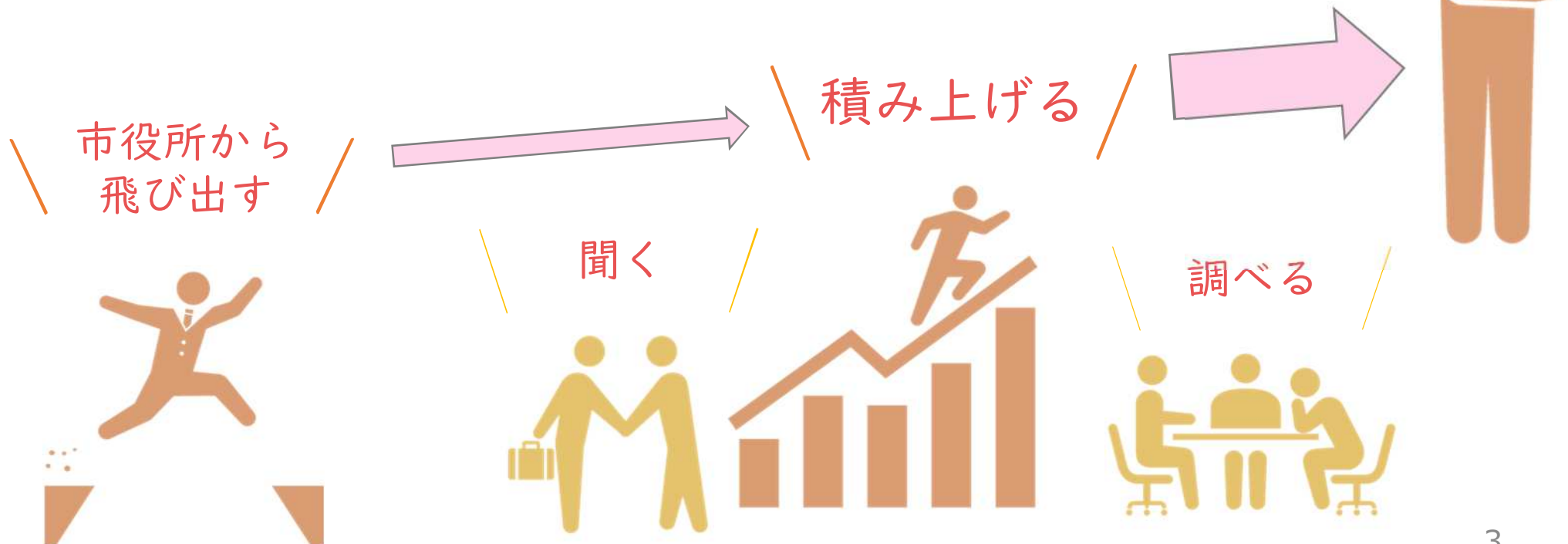
…etc





自分たちに「何ができるか」考えるようになった (①・②・③を積み重ねて)

- ①まずは聞きに行こう！調べよう！
- ②実際の声・数値で分かること何？
- ③関係各課や関係者が取り組みたいことは何？





- (1) (そもそも) 高齢者が安心して暮らすために、なぜ「**つながり**」が必要？
- (2) (そもそも) 地域における「**つながり・見守り・見守られ**」って何？



人とのつながりがストレスになることもあるよね？
コミュニケーションや会話が本当に必要？



困り感を感じる事態の時に
誰がセーフティ**ネット**になり得るか考え、
そのための**つながり**作りが必要である。



民生委員さんに話を聞きに行ってみよう～

どういうことか関係課にきいてみよう～

なんでそうなってるの～



見守りが必要なのはひとり暮らし高齢者だけじゃない
高齢者のみの世帯でも「気かけあい」や「つながり」が必要

- 息子・娘は市外に転居
- 高齢者は「自宅での生活を続けたい」と願っている
- 見守りの「システム」には限りがある
- 見守り協定で機能するのは「定期的な訪問」が必須
- 町内会・自治会は加入率が低下傾向
- 民生委員が担当するひとり暮らし高齢者が増加
- ボランティアセンターは人手不足
- 生活支援団体、老人クラブ友愛チームはあるけど…



宅配弁当、牛乳屋さん、豆腐屋さん、管理組合、移動スーパー、
まちの保健室、交流づくりのボランティア、情熱をもった若手経営者の皆様



つながりのある暮らしで**高齢者**が**安心**して住み続けられるまち





- (1) 高齢者を気にかける仲間の拡大（すでにある取組の発見）
- (2) 高齢者の外出機会の創出（行きたいと思う取組作り）
- (3) 高齢者のつながり作り（活動したい人、参加したい人のマッチング）

④地域とのゆるやかなつながり

③ボラセンやサービスとのつながり





(4) 当係への相談関係づくり





●「まずは聞いてみよう」という意識への転換

- ・他の課が困っていることや悩みを聞くようになった。
- ・地域の人に「教えてください」と積極的にいうようになった。（呪縛・思い込み脱却）
- ・生活支援コーディネーターと話し合う時間が増え思考が深まる気がする。

●「人へ話す時」の変化

- ・体験に基づく話や数値でわかることを話すようになった。
- ・知らないことは「知らない」「次回までに調べてきます」のポジティブ変換

●仲間が増える予感…

- ・持参した資料が欲しいと言われた。
- ・「何かあれば、また言ってください」と言われることが増えた。

●地域住民との距離感が近くなった

- ・「また来てね。」と言われることが増えた。





熱い想いを実現に
まずは一歩動いてみよう

ご清聴
ありがとうございました





	これまでの検討を踏まえて 現時点での設定	なぜ？ (裏付ける具体的事実とともに、文章で説明)
目指す姿	つながりのある暮らしで高齢者が安心して住み続けられるまち	(なぜそれを目指したいのか) - 早期に異変に気付ける「つながり」があることで救われる高齢者がいるため。 - 高齢者の多くは、できる限り息子や娘の世話にならず、施設のお世話にもならず、住み慣れた思い出の地で住み続けたいと願っている。 - 自宅で転倒し起き上がれなくなった時「9時になれば友達が遊びに来てくれる」と耐えられた方や、異変がないことを伝えるために「雨戸の開け閉め」を日課にされている方がいる。 - 地域の多様な「つながり」は、暮らしの安心につながるとともに、介護が必要になっても「住み慣れた地域で住み続けたい」という高齢者の願いを支える重要な要素だと考える。
現状	(目指す姿に対する現状) - 生産年齢人口が、東京、川崎・横浜地域、湘南地域へ転居している。 - 高齢化が進むとともに、ひとり暮らしの高齢者が年々増えている。 - 家族が市外在住の場合、高齢者のみの世帯が、ゆくゆくひとり暮らしになる可能性が高い。 - 市外に住む家族は高齢者の変化や異変に気付ける機会が少ない。	(1) 横須賀市の人口動向(高齢者世帯、ひとり暮らし高齢者の増加) ①転入・転出について(資料1) 総務省が公表する人口移動報告によると、平成25年(2013年)に本市は「転出超過」が全国1位 転出超過を年齢階層別でみると、0～14歳が141人、15～64歳が1481人、65歳以上が150人であった。 対して、同年の「転入超過」では、同県の川崎・横浜・藤沢の3市が上位20市町村にランクインした。 ※「転出超過」：転入者よりも転出者が上回ること 「転入超過」：転出者よりも転入者が上回ること 神奈川人口ビジョンによると、横須賀市は東京都への転出に加えて、川崎・横浜・湘南エリア等への県内移動が起きている。(資料2) ②人口減少について 平成17年(2005年)から平成27年(2015年)までの10年間で、人口は約2万人減少 令和2年4月時点の人口は、393,069人である。 ※令和2年4月時点、住民基本台帳より、自衛隊で営内に居住している人を除く ③高齢化とひとり暮らし高齢者の増加について(資料3) 高齢化率は平成12年(2000年)の17.4%から10年間で31.8%(約2倍)、 全国平均(28.9%)や県平均(25.8%)を上回る高齢化率である。 ひとり暮らし高齢者の数は、年々増加傾向である。 ④介護保険に関するアンケート調査結果(資料4) 要支援・要介護の高齢者の7割は「自宅での生活を続けたい」と回答している。 しかし、6割が高齢者のみの世帯 家族・親族からの介護について、3割は「ない」と回答



これまでの検討を踏まえて 現時点での設定

なぜ？ (裏付ける具体的事実とともに、文章で説明)

現状

(目指す姿に対する現状)

・ひとり暮らしや高齢者のみの世帯でサービス（介護保険や民間サービス・市のサービス）等を利用していない場合には、変化や異変に気づきにくい。

・「地域に求める支え合いや助けについて」、高齢者本人も介護者も「見守り・話し相手」を求めている（資料5）

・見守り協定による通報は、毎日～週に数回～月に数回程度、定期的に高齢者宅を訪問する事業者からである。

・見守り協定を結んでいない事業者等では、管理組合、宅配弁当、ケアマネージャー、不動産会社、牛乳配達から通報がある。

・万が一に備えて、市に自分の情報を登録しておきたいと思う人がいる。気軽に登録できるようになり、登録件数が増加している。

(2) システムによる見守りについて

・相談窓口での相談によると、民間の見守りサービスは値段が高い／身寄りがなく、緊急連絡先を書くことができないという理由から、利用できない高齢者がいる。

・市のサービスである「緊急通報システム」では、緊急連絡先に「民生委員」を登録することが可能

※「緊急通報システム」

：65歳以上のひとり暮らし高齢者、または高齢者のみの世帯で病弱あるいはねたきりの状態にない方が1人以下の世帯を対象に、家庭用電話に緊急通報ができる機器を設置するものボタン一つで緊急通報が出来るほか、ボタンが押せない際でも、センサーが利用者の動きを感知し、一定時間動きが無いなど異常があった際には、自動で緊急通報を行う。

【民生委員のヒアリングより】

次の理由から申請しない場合がある。

- ・今は元気だから心配ない
- ・市外の家族とも連絡をとれるから必要としていない
- ・行政が嫌い、行政に把握されたくない

しかし、高齢者2人の世帯を民生委員が訪問したところ、2人とも倒れていたというケースもあり、暮らしに困り感がない高齢者の場合も、見守りは必要だと感じているとのこと。

(エピソード①より)

(3) 安否確認の通報や相談について（資料6）

見守り協定による通報の8割は生活協同組合で、続いて新聞配達、ガス会社である。

見守り協定を結んでいない事業者からの相談もある。

H28～R2年に総合相談窓口に入った安否確認の相談記録によると、死亡・救急搬送に至った重大ケースの相談者は29%が民生委員、17%が生活協同組合であった。

(4) 引き取り手のない遺骨数と「わたしの終活登録」の件数（資料7）

市内の引き取り手のない遺骨数は年々増加傾向

「わたしの終活登録」の件数も今年度、電話登録が可能になったことで右肩あがり。

主な周知方法は、町内会・自治会、民生委員を通じた配布、葬儀屋から登録会員への周知、施設の入居要件（施設による）、テレビ・新聞等のメディアによる。

※「わたしの終活登録」（資料8）



これまでの検討を踏まえて 現時点での設定

なぜ？ (裏付ける具体的事実とともに、文章で説明)

現 状

(目指す姿に対する現状)

・町内会・自治会からの情報伝達や支援に限りがある。

・ひとり暮らし高齢者の支援を、民生委員や社会福祉推進委員が中心となり行っている。

しかし、見守る対象の高齢者が多く、活動にも限りがある。
また、活動する民生委員もほとんどが高齢者である。

・ふれあい・いきいきサロンに参加しない高齢者もいる。

(5) 町内会・自治会について

地域活動の中心は町内会・自治会であるが、全市的に加入率は低下傾向である。
加入率が高い地域では83.5%、低い地域では58.4%の加入率である。
任意団体であるため、非加入者への支援は難しい面がある。

【加入率低下の要因】

- ・高齢者で、組長や班長等の役目を担うことが困難という理由から脱退
- ・転入世帯で、初めから未加入

(6) 民生委員児童委員の取組について

①主な活動内容

- ・必要な相談・援助活動
- ・ひとり暮らし高齢者の見守り活動や「市のサービス」の代理申請
- ・いきいきサロン・子育てサロンの運営

②委嘱状況

現在、556名（定員数584名）であり、欠員が28地区ある。

③担当するひとり暮らし高齢者について

民生委員1人あたりが担当するひとり暮らし高齢者は平均40人前後、多い人では108人を担当している。
欠員の地区は、各地区の民生委員会長や、近隣の民生委員が分担することで補っている。

④ふれあいいきいきサロンについて

市社協に登録し、活動する「ふれあい・いきいきサロン」は市内に258ある。

運営の中心は、多くの場合、民生委員と「社会福祉推進委員」である。

サロンの開催頻度は、57%が月1回以上、24%が年2～3回、週に1回は7%である。

多くのサロンで行われているのが、「体操」や「お茶とお話し」である。

民生委員によると、「ふれあい・いきいきサロン」に来るのは決まった人であるとのこと。

※「社会福祉推進委員」

：市社協が委嘱するもので、民生委員と対等な立場で活動に協力する「よき協力者」（約2,000人）

【役割】

- ・民生委員の活動、町内会・自治会の活動への協力
- ・地区社会福祉協議会（市内18地区）の会員

（協力の仕方や地区社協における位置付けなどは地域ごとで異なる。）



これまでの検討を踏まえて 現時点での設定	なぜ？ (裏付ける具体的事実とともに、文章で説明)
現状 (目指す姿に対する現状) ・支援が必要な高齢者の手助けを、民生委員や社会福祉推進委員が中心となり行っている。 しかし、活動にも限りがある。 ・住民自ら課題意識を共有した地域では、生活支援を行う団体が立ち上がったたり、老人クラブが友愛チームとして見守り活動を行っているが、全市的ではない。 ・地域に根付く昔ながらの商店や移動スーパーが高齢者の見守り等支援を実施している場合があるが、全市的ではない。	(7) 市内のボランティアセンターについて 市内17のボランティアセンターの開所日は概ね週2回 民生委員や社会福祉推進委員がボランティアとして活動していることが多い。 ボランティア不足に悩んでいる。(ボランティアセンターのヒアリングより) (8) 老人クラブについて 市内の老人クラブ241のうち高齢者の訪問・支援を行う「友愛チーム」が市内に36チームある。 なお、すべての友愛チームが活動を行っているわけではない。 市老人クラブ連合会では、友愛チームの立ち上げを推進していこうと取り組みを進めている。 (9) 生活支援団体について 生活支援を行う地域組織は、市が把握している限りで、現在、市内に47団体である。 概ね、活動の範囲は町内会・自治会エリアである。(市内の町内会・自治会数366) 活動者の平均年齢は70代で、市内すべての地域にあるわけではない。 (10) 高齢者を気にかけている方々 ①地域に根付く牛乳屋さんや豆腐屋さん ・できることがないかと電球の交換、スマホの使い方相談、傾聴を行っている。(牛乳屋さん) ・民生委員が見守りを担当する高齢者が店頭を通るか日々気にかけている。(豆腐屋さん) ②移動スーパー 到着前に利用者へ電話を掛けたり、インターホンを押して住民と交流しながら、安否確認を行う ドライバーが増えれば、移動販売のエリアを拡大したいと考えている。 【民生委員のヒアリングより】 ・108人の見守りを担当する民生委員は、住民に呼びかけ、移動スーパーを依頼した。 ・高齢者に出てきてもらうことで見守りを実施するとのこと。 ・移動スーパーによると、ニーズがあることが分かれば安心して販売に来れるので助かる。



これまでの検討を踏まえて 現時点での設定		なぜ？ (裏付ける具体的事実とともに、文章で説明)
現 状	(目指す姿に対する現状) ・まちの保健室、社交ダンス、横須賀青年会議所等、コミュニティづくりに資する取組を展開しようとしている。	(11) コミュニティづくりにつながる取組 ①まちの保健室 看護師の資格をもつコミュニティナースが中心となる「まちの保健室」が市内4か所健康なうちから専門職と関わる機会を作り、気軽に健康相談ができるように活動を行っている。 ②社交ダンスによる交流ボランティア 外出が難しい高齢者の元に出向き社交ダンスや車いすダンスを通して交流を図っている。社交ダンス経験者がボランティアとして活動している。 市民の互助的健康づくりを促進し、健康で楽しい生活の一助とすることを目的とする。 ③横須賀青年会議所 地域コミュニティ再興委員会 地域コミュニティ再興の推進事業を行うことで、まちにつながるの連鎖を醸成することを目的とする。
課 題	(目指す姿と現状のギャップを埋めるために取り組むべきこと) (1) 高齢者を気にかける仲間の拡大 ・すでにある取組の発見 ・新たな仲間の発掘 (2) 高齢者の外出機会の創出 ・行きたいと思う多様な取組を作り出すこと (3) 高齢者のつながり作り ・活動したい人、参加したい人のマッチング (4) 当係への相談関係づくり	(なぜそう考えたのか) (1) 民生委員や生活支援団体の工夫（ヒアリングより） ①個々人のつながりを見つける ・隣三軒両隣等、班や組単位で庭木の剪定等助け合っている場合がある。 ・ひとり暮らし高齢者が互いに緊急時の対応を話し合っている場合がある。 ・活躍に場を探していた人を仲間にする ②企画の実施 (例) 地域清掃、お互い様バザー、在宅医療に関する講座の開催 ③多様な主体と連携する 豆腐屋さんとの連携、移動スーパーの販売日に駐車場所で見守り (2) 活動や営業を展開したい人の悩み 展開を検討する上で、活動者の募集、参加者への周知に悩みがある (3) そもそも、うちの係が知られていないため、相談もないのではないか



これまでの検討を踏まえて 現時点での設定

なぜ？ (裏付ける具体的事実とともに、文章で説明)

打ち手

(どこから手をつけるか、それによって誰の何が変わっていくのか)

(1) 見守り協定の拡大
定期的に高齢者宅を訪問するお弁当や牛乳の宅配事業者と見守り協定を結ぶ。

(2) ほっとかんの周知と関係づくり
【対象】
・地域に根付く個人営業の宅配事業者
・高齢化率が高いマンションの管理組合
ほっとかんの周知を行うことで、異変時に連絡してもらおう関係づくりを行う。

→ (1) ・ (2) を実施することであまり出歩かない・出歩けない高齢者の安否確認・見守りになる

(3) 活動者の募集を支援する
・移動スーパーやまちの保健室等、活動者の募集を支援することで、活動範囲が広がれば、買い物とおしたコミュニティづくり、健康相談をとおしたコミュニティづくりが可能となる。
→高齢者の外出機会が増え、つながりができる

(4) マッチングや周知を支援する
・移動スーパー、まちの保健室、社交ダンスボランティア、青年会議所等の活動の場とニーズのマッチングを支援する
・活動の周知を支援することで地域住民に伝えることができる。
→高齢者の外出機会が増え、つながりができる。

(5) 相談して欲しいと説明・チラシを配布する

(なぜそれが有効だと思うのか)

・現在本市が結んでいる見守り協定の通報件数のうち、7割が生活協同組合である。
・飲食は欠かせないものであるため、お弁当や牛乳の宅配事業者と協定を結ぶことで早期の発見に至りやすい。

・個人営業で、配達エリアを限定している事業者の場合は、直接ほっとかんの周知を行う方が早い。

・孤独死が起きると管理組合が悩むケースがある。管理組合からの通報件数が一定数あるため、高齢化率が高いマンションの場合は事前に関係づくりを行うことで相談支援が入りやすくなると考える。

・移動スーパーでは、営業マンのみならず、利用する人同士が声を掛け合い見守りにつながっている。ドライバーが増え、営業範囲が拡大すれば、利用するために、外へ出る機会になる。

・高齢者福祉に関するアンケートによると、健康に関する記事や番組への関心について、88.7%の高齢者が関心があると回答している。
・また、高齢者の多くは「高血圧」等の持病があると回答している。(資料9)
・高齢者にとっては、適度な運動が必要であるとともに、健康に対しては興味関心が高いと思われる。(資料10)

・地域のコミュニティづくりに寄与できないかと検討している民間事業者や市民団体等にニーズの把握や周知で協力することで、行政だけではない多様な活動が展開できる。

資料Ⅰ 横須賀市の転出超過について



転入・転出超過数上位20市長村（平成25年）

(人)				
	転入超過数の上位20市町村	平成25年	平成24年	対前年増減数
1 (1)	東京都特別区部 (東京都)	61,281	49,655	11,626
2 (4)	札幌市 (北海道)	10,088	9,108	980
3 (5)	大阪市 (大阪府)	8,729	7,742	987
4 (3)	福岡市 (福岡県)	8,186	9,221	-1,035
5 (7)	川崎市 (神奈川県)	6,929	4,062	2,867
6 (6)	さいたま市 (埼玉県)	6,572	4,704	1,868
7 (9)	横浜市 (神奈川県)	5,359	3,235	2,124
8 (8)	名古屋市 (愛知県)	5,229	3,998	1,231
9 (2)	仙台市 (宮城県)	4,772	9,284	-4,512
10 (10)	吹田市 (大阪府)	2,708	2,369	339
11 (25)	船橋市 (千葉県)	2,467	1,138	1,329
12 (1647)	多摩市 (東京都)	2,125	-452	2,577
13 (18)	豊中市 (大阪府)	1,969	1,435	534
14 (11)	藤沢市 (神奈川県)	1,511	2,061	-550
15 (46)	武蔵野市 (東京都)	1,484	809	675
16 (49)	名取市 (宮城県)	1,469	796	673
17 (1675)	柏市 (千葉県)	1,461	-574	2,035
18 (54)	流山市 (千葉県)	1,392	721	671
19 (12)	川越市 (埼玉県)	1,386	1,825	-439
20 (48)	神戸市 (兵庫県)	1,339	804	535

(人)				
	転出超過数の上位20市町村	平成25年	平成24年	対前年増減数
1 (10)	横須賀市 (神奈川県)	-1,772	-1,173	-599
2 (9)	日立市 (茨城県)	-1,485	-1,174	-311
3 (12)	呉市 (広島県)	-1,373	-1,041	-332
4 (22)	豊田市 (愛知県)	-1,261	-791	-470
5 (8)	長崎市 (長崎県)	-1,244	-1,185	-59
6 (7)	沼津市 (静岡県)	-1,239	-1,439	200
7 (482)	寝屋川市 (大阪府)	-1,192	-133	-1,059
8 (34)	枚方市 (大阪府)	-1,166	-637	-529
9 (13)	釧路市 (北海道)	-1,150	-1,033	-117
10 (32)	函館市 (北海道)	-1,123	-642	-481
11 (17)	下関市 (山口県)	-1,107	-924	-183
12 (47)	北九州市 (福岡県)	-1,080	-559	-521
13 (14)	青森市 (青森県)	-1,023	-1,021	-2
14 (21)	小樽市 (北海道)	-921	-792	-129
15 (33)	尼崎市 (兵庫県)	-910	-640	-270
16 (18)	大東市 (大阪府)	-896	-921	25
17 (27)	室蘭市 (北海道)	-888	-666	-222
18 (19)	鳥取市 (鳥取県)	-881	-862	-19
19 (58)	富田林市 (大阪府)	-879	-514	-365
20 (59)	市原市 (千葉県)	-862	-513	-349

注1) () 内は平成24年の順位。

注2) 東京都特別区部は1市として扱う。

注3) 転入・転出超過数の「-」は転出超過を表す。

総務省統計局 住民基本台帳人口移動報告 平成25年（2013年）結果より抜粋

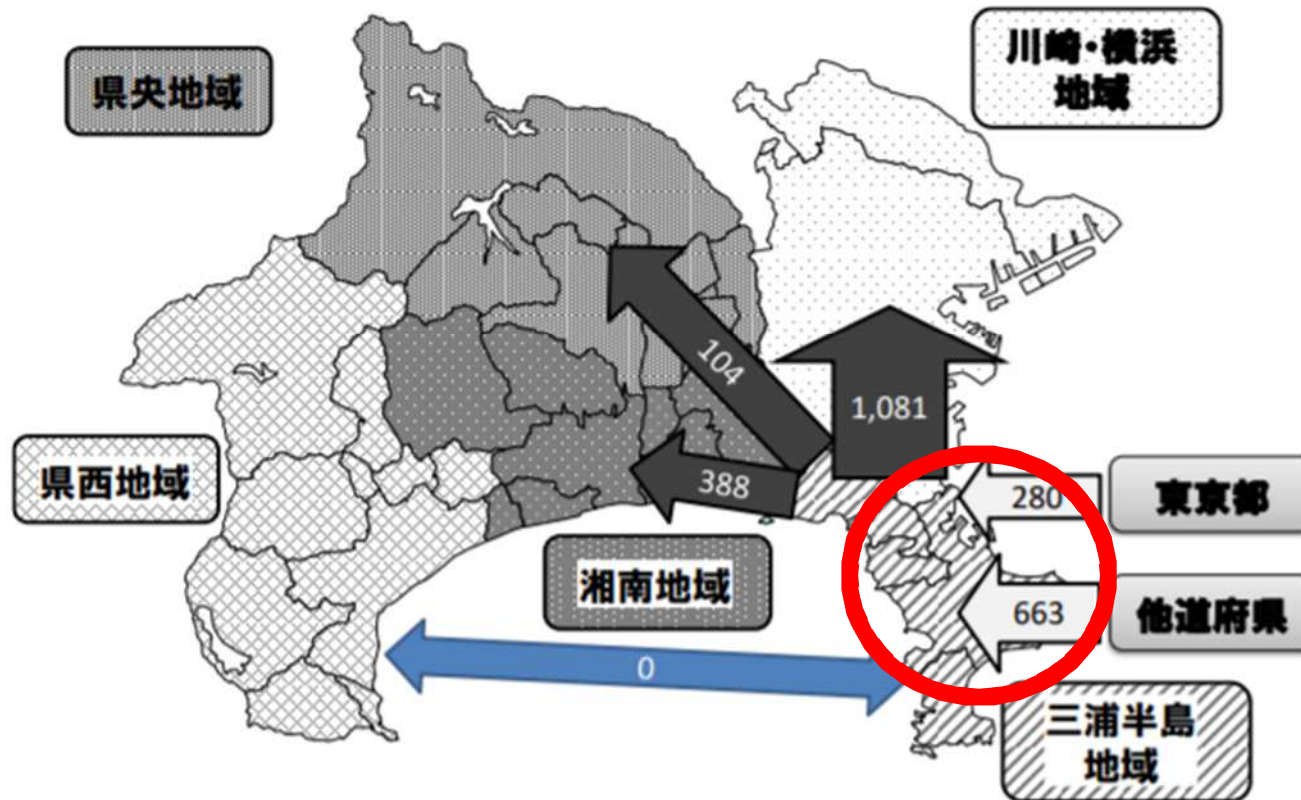
資料 2 横須賀市の人口移動について



《三浦半島地域》… 横須賀市、鎌倉市、逗子市、
三浦市、葉山町

社会増減：－630 人

図表 18 地域政策圏別の人口移動（三浦半島地域）



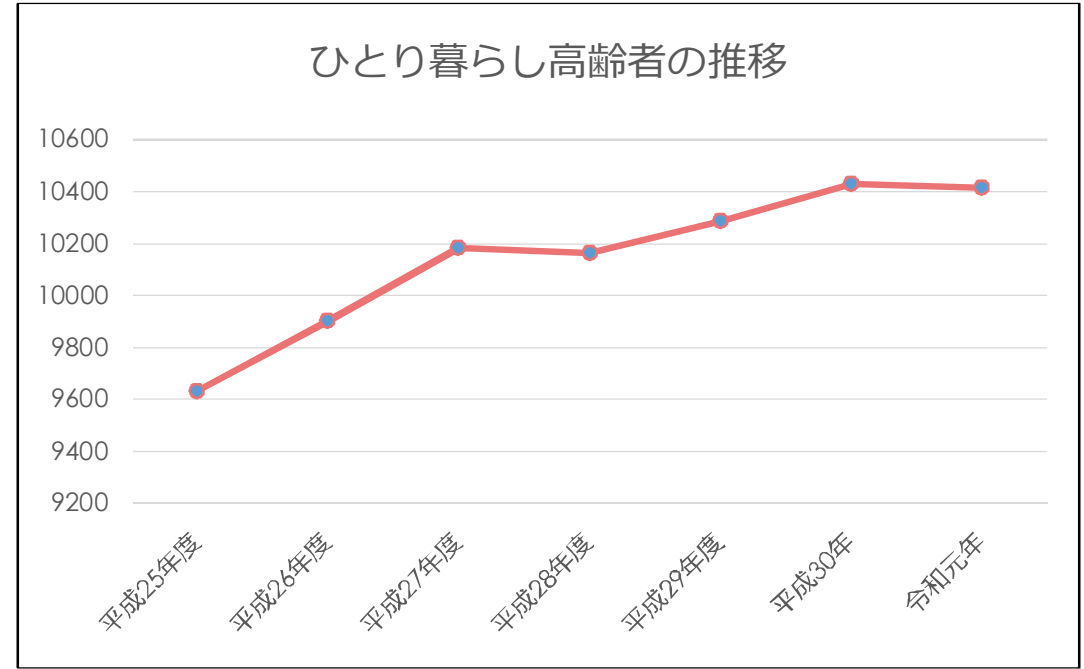
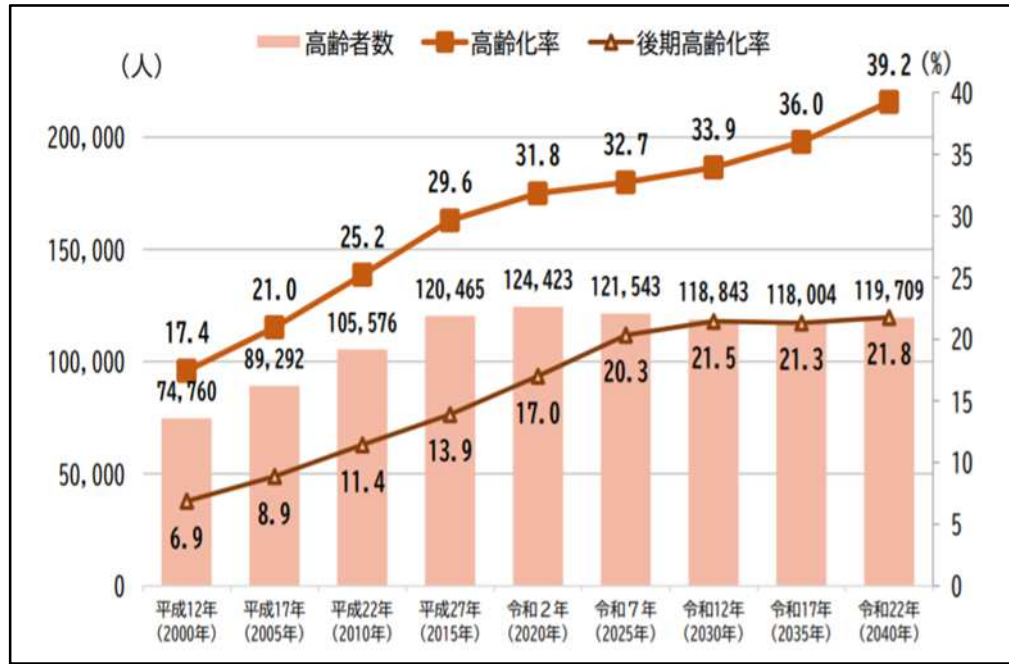
（総務省「住民基本台帳人口移動報告（2018 年）」から内閣官房が再集計したデータより作成）

県外からの転入よりも
川崎・横浜地域
湘南地域など
県内移動が増

年齢別では
20～34歳の
東京・川崎・横浜
転出が増

神奈川県人口ビジョン（令和2年3月改訂）より抜粋

資料3 高齢化とひとり暮らし高齢者の増加について



※民生委員を通じて調査票の提出を受けた人数
住民基本台帳におけるひとり暮らし世帯数ではなく
居住実態に基づき登録している。

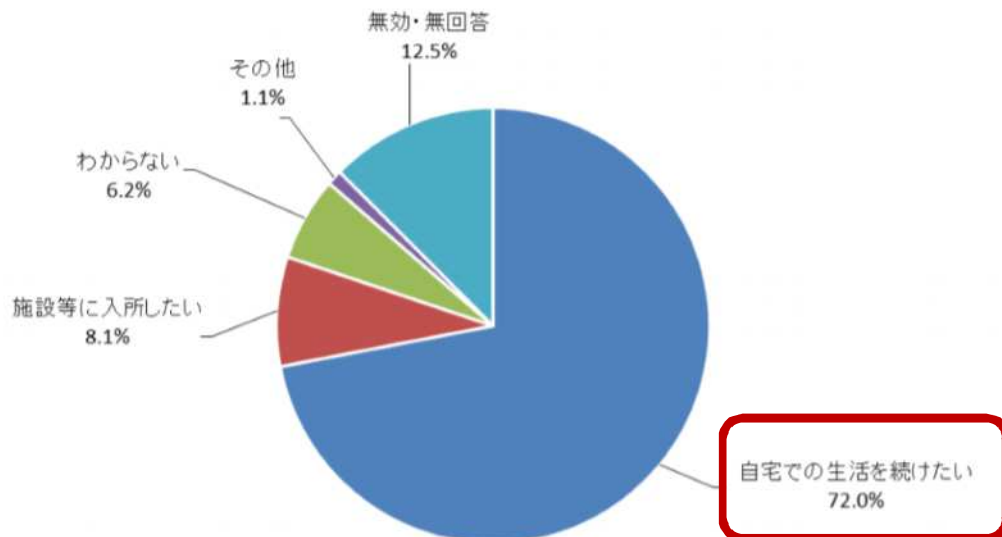
高齢化率は10年間で17.4%→31.8%（約2倍）

ひとり暮らし高齢者の数が**増加**傾向

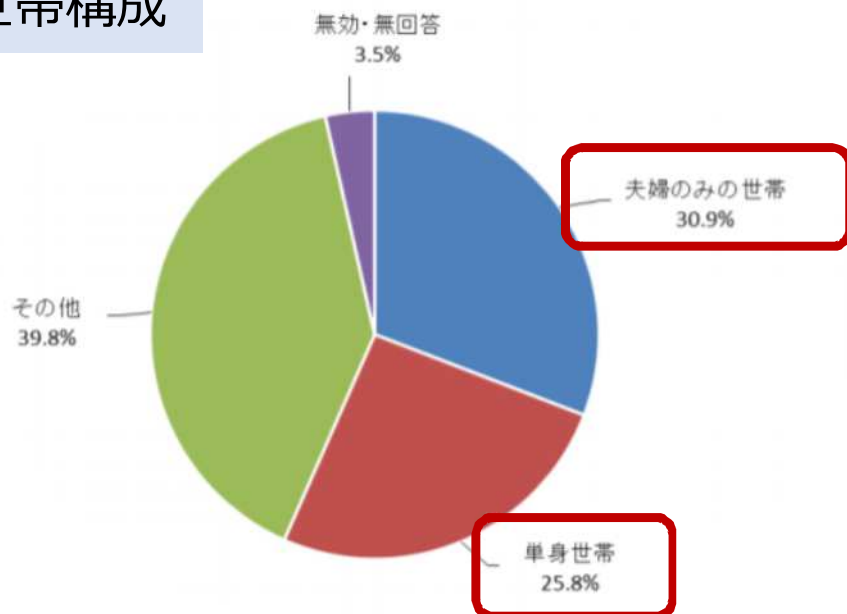
高齢者2人暮らしの高齢者が、今後ひとりになってしまう可能性も高い

資料4 要支援・要介護者が望む暮らしと現状

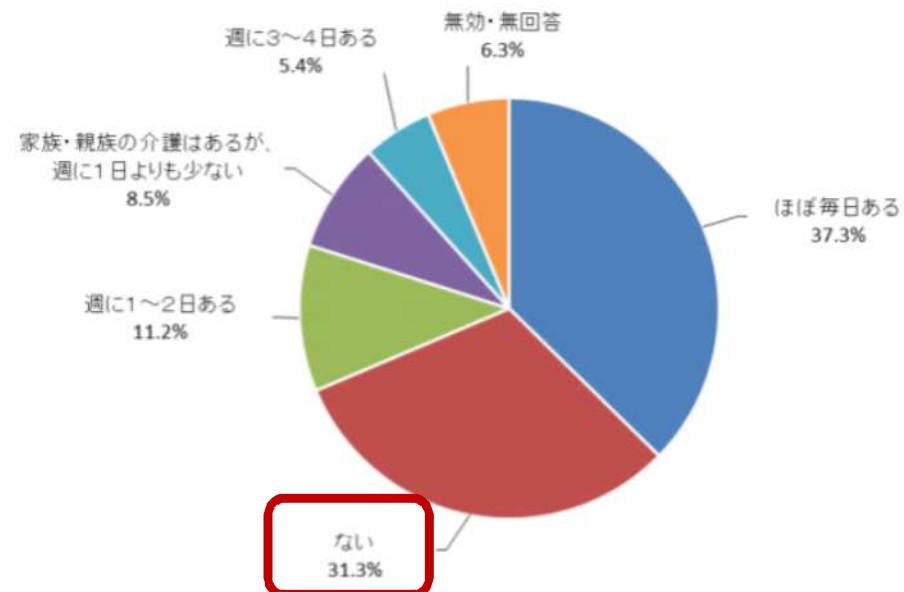
要支援・要介護者が望む暮らし



世帯構成



家族・親族からの介護について



7割が「自宅での生活を続けたい」

6割が高齢者のみの世帯

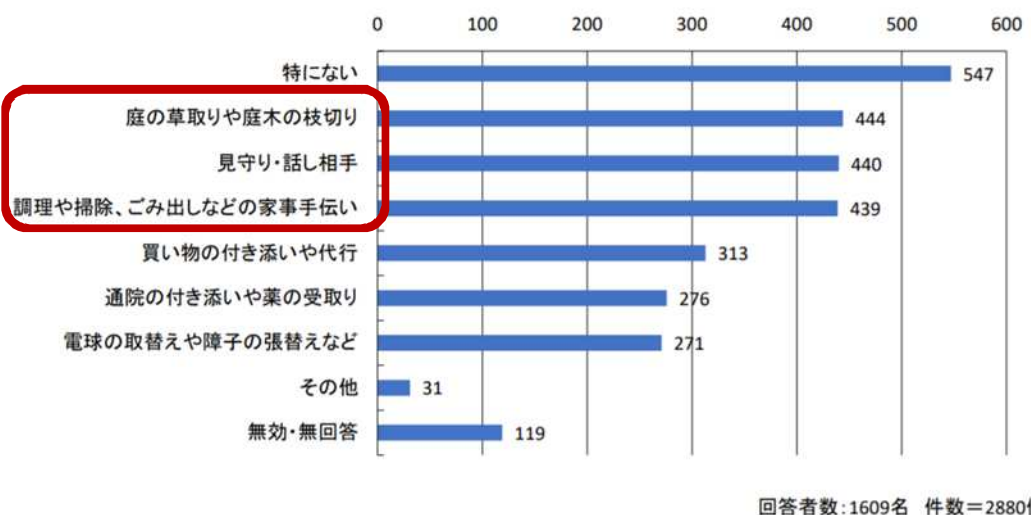
3割は家族・親族からの介護がない

資料5 地域に求める支え合いや助けについて



日常生活の小さな困りごとへの支援について、「地域の支え合いで解決できたらいい」と思うこと
介護を続けていく上で、「地域の方の助けがあったらいい」と思うこと

要介護認定を受けていない 高齢者が思うこと



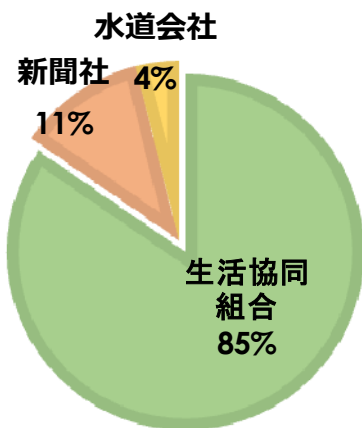
介護者の家族が思うこと



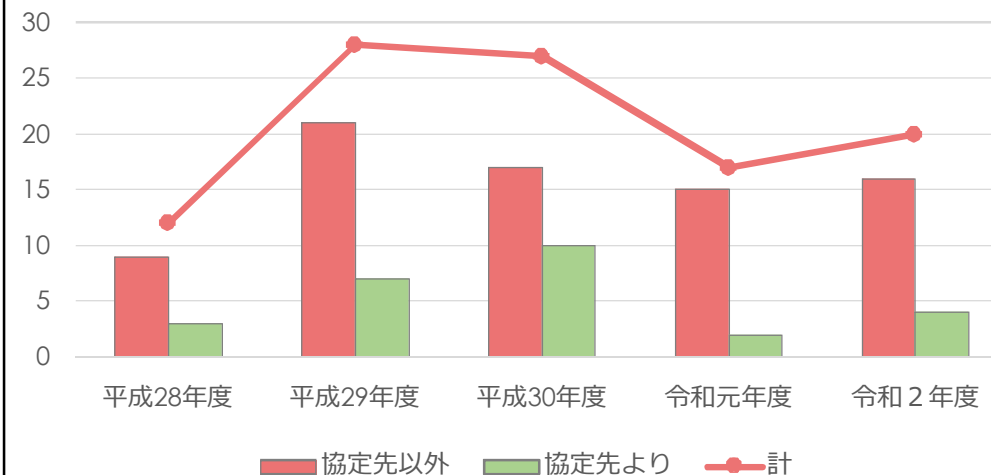
「**見守り・話し相手**」、「**庭木の草取り・枝切り**」
「**家事手伝い**」、「**通院付き添いや薬の受け取り**」が**上位**

資料6 安否確認の通報・相談について（平成28年度～令和2年まで）

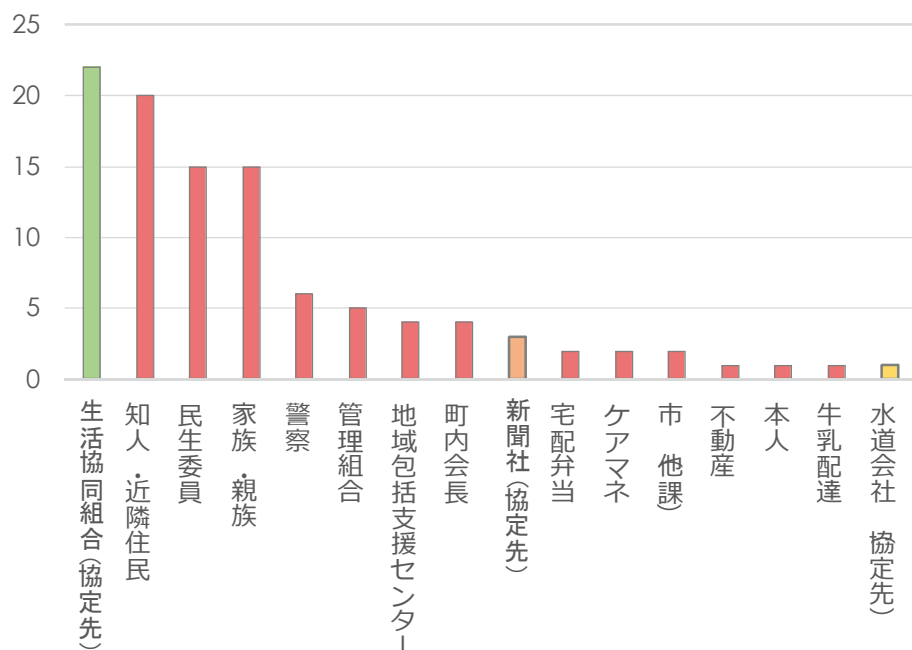
見守り協定先の通報件数（割合）



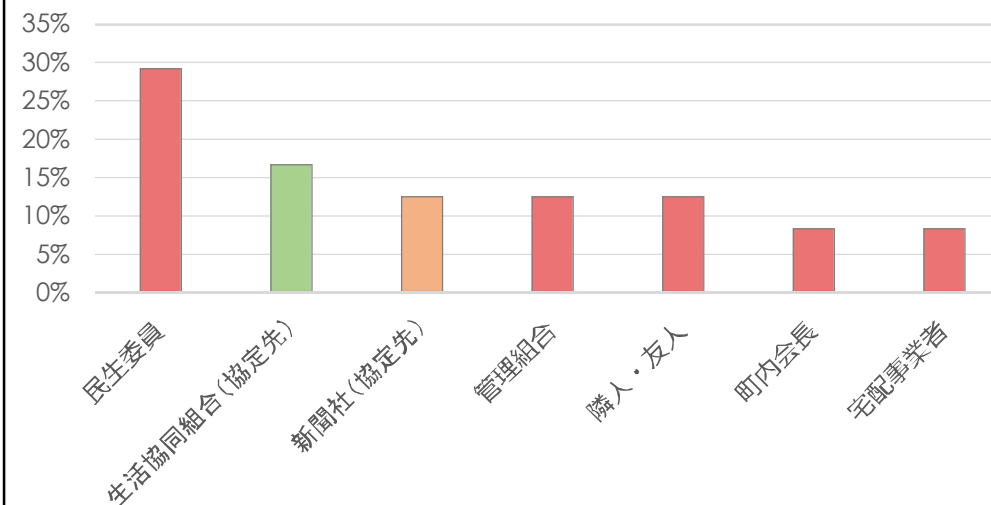
通報者・相談者について



安否確認の通報・相談者について

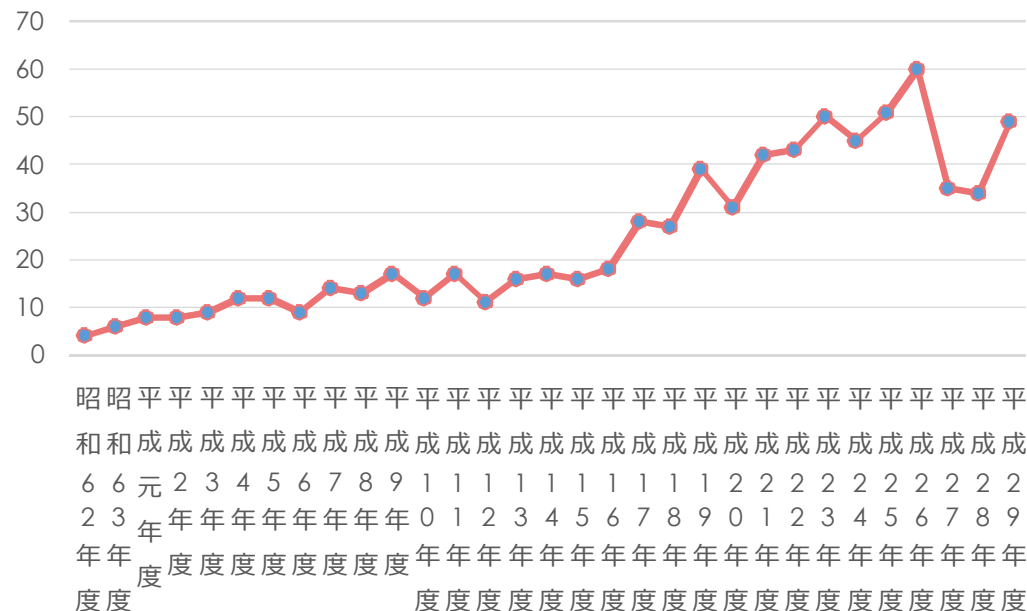


重大ケースの通報・相談者について

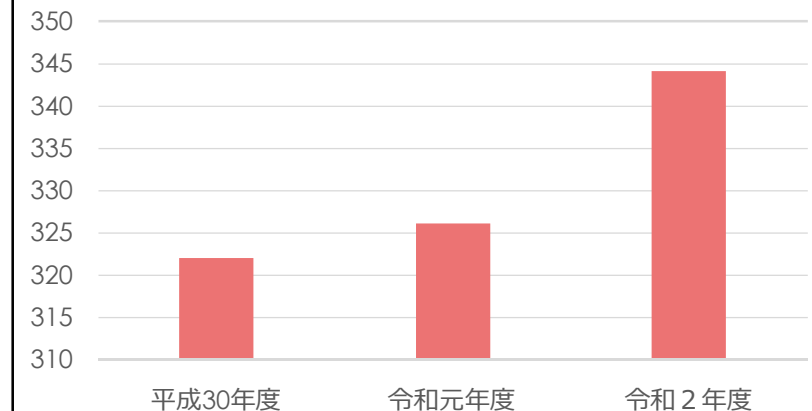




横須賀市の引取手のない遺骨数の推移



終活登録の件数



※令和2年度は中間報告からの推計値

- ・ほとんどが身元のわかる横須賀市民だが、引取り手がない
- ・終活登録事業は件数が増加傾向
→電話登録が可能になったことやコロナで不安感が増加したことが影響していると考えられる。



横須賀市

無料 **わたしの終活登録** **受付** 平成 30 年 5 月～

自由な登録 **終活登録** 選べる項目

横須賀市民終活情報登録伝達事業

私が倒れてしまったら
どうやって伝えれば、
良いんだろう……

親族の
連絡先

葬儀の
生前契約先

エンディングノートや
遺言書の保管場所

お墓の場所

飲んでいい薬
いけない薬

大丈夫なニャン

（ご安心ください
横須賀市の終活登録がありますよ）

お問合せ、ご登録は…電話 046-822-8570
横須賀市福祉部地域福祉課終活支援担当まで、どうぞ

終活登録とは？

もしも、元気なあなたが、ご自身で意思を伝えられなくなったら
あなたの「緊急連絡先」や、「終活ノート」「遺言書」の保管場所
葬儀の「生前契約先」、そして、あなたの「お墓の所在地」・・

以前なら、ご家族・ご親族が伝えてくださったのかもしれませんが。
しかし、近くにご親族がいなければ・・・
ご夫婦でも、ひとりが入院してしまわれたら・・・
だれに伝えてもらったらいののでしょうか？・・

「わたしの終活登録」は、大切な終活情報を登録いただき、
いざという時、あなたに代わって、市が、病院・消防・福祉事務所・
警察・あなたが指定した方からのお問合せに、お答えする制度です。

お元気な時、終活情報を登録

登録 → 市役所

市役所 → 照会 → 病院、消防、福祉、警察、指定者

緊急連絡先、支援事業所、医師、アレルギー、終活ノートの保管先、葬儀・納骨の生前契約先、遺言書の保管先、お墓の所在地、など

万一の時、市が代わりにお答え
(右の回答対象者にお答え)→

「終活登録をしたい。」という市民の方なら、誰でも登録できます。
所得や資産の制限もありません。登録は無料、項目も選べます。

登録項目：登録できる人（）内は疾病等事情に応じ可	7. 臓器提供に関する意思表示：①
1. 本籍・筆跡者：①②③	8. 葬儀・通品整理・葬儀の生前の契約・登録先：①②③
2. 緊急連絡先：①②③④	9. 遺言書の保管場所と、保管場所の回答者の指定：①
3. 支援事業所や所属サークル等：①②③	10. お墓の所在地：①②③④
4. 医師・アレルギー：①②③	11. その他自由登録項目：①
5. リビングウィルの保管場所：①②③	①本人、②配偶者、③親族、④知人の順で優先。（）内の番号の 方は、疾病・障害など、事情に応じ記入できる場合があります。
6. エンディングノートの保管場所：①②③	

自由な登録・選べる項目 電話 046-822-8570
“わたしの終活登録”に、ぜひご登録ください。

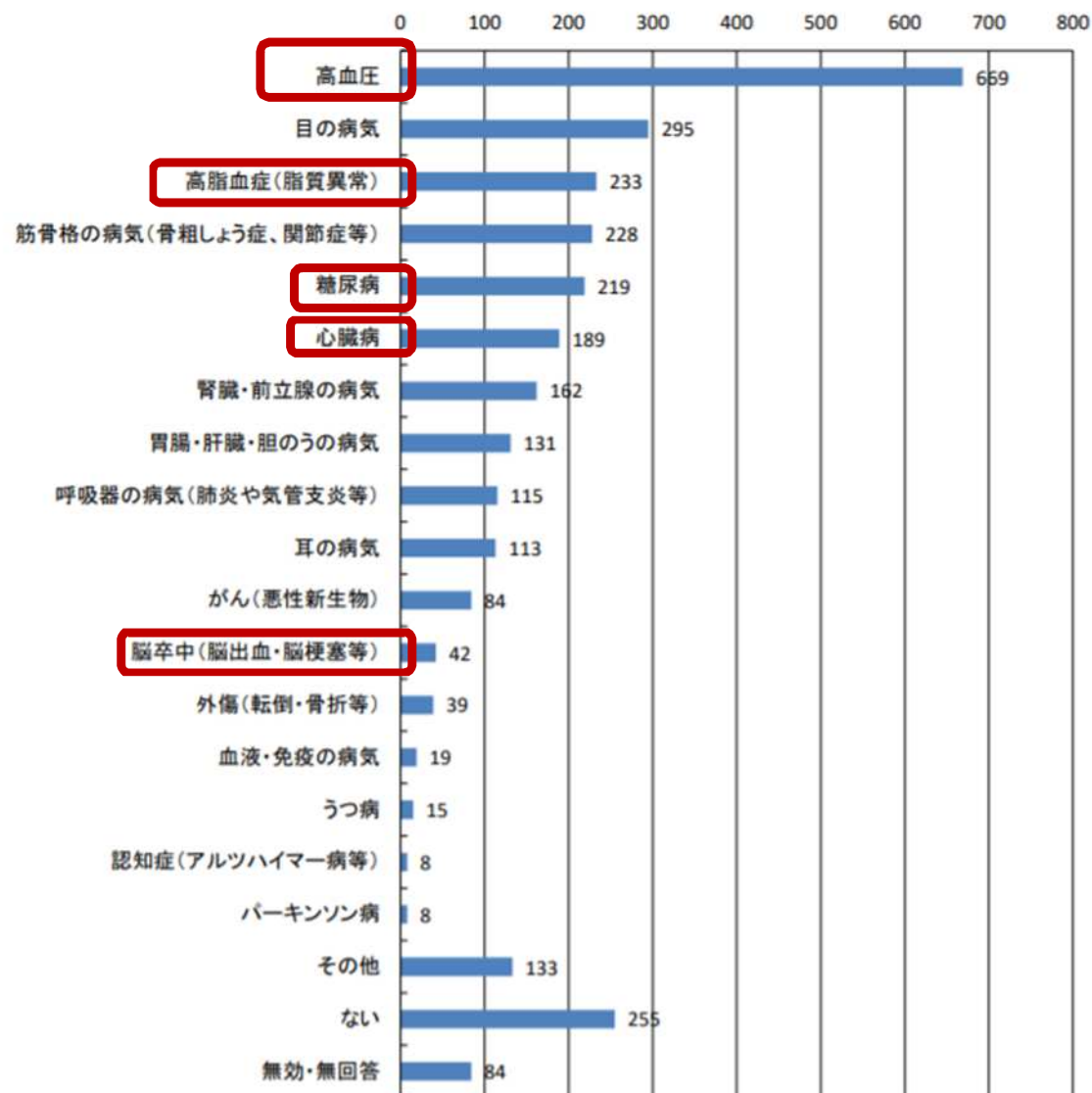
※本事業は、回答対象者からの照会に対し、書面記載内容を回答するものです。
照会なしに市が連絡したり、照会者の依頼で他の支援をするものではありません。

担当窓口：横須賀市役所 消防庁舎 1 階 地域福祉課 終活支援担当
相談登録：開庁日 午前 9 時から 11 時 午後 1 時から 4 時
持 ち 物：運転免許証など身分を証するもの、印鑑

誰も、ひとりにさせない



現在治療中、または後遺症のある病気はありますか(いくつでも)



最も多いのが**高血圧**
その他の**病気を誘発する**
可能性が**高い**

予防には
適度な運動が大切

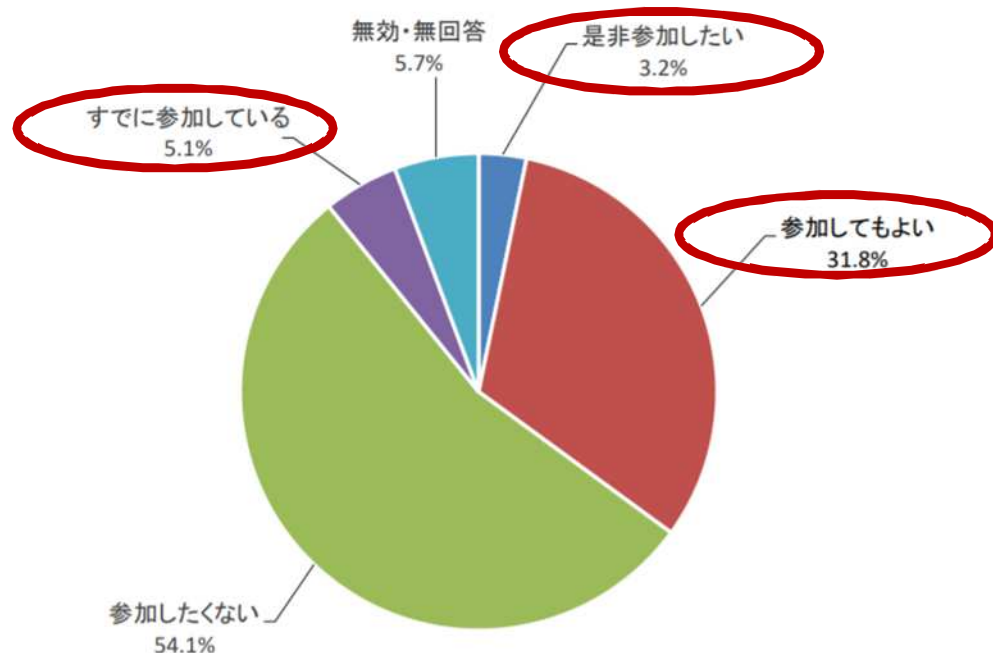
※高齢者福祉に関するアンケート調査(2019)より抜粋

資料10 高齢者向けアンケートの結果より

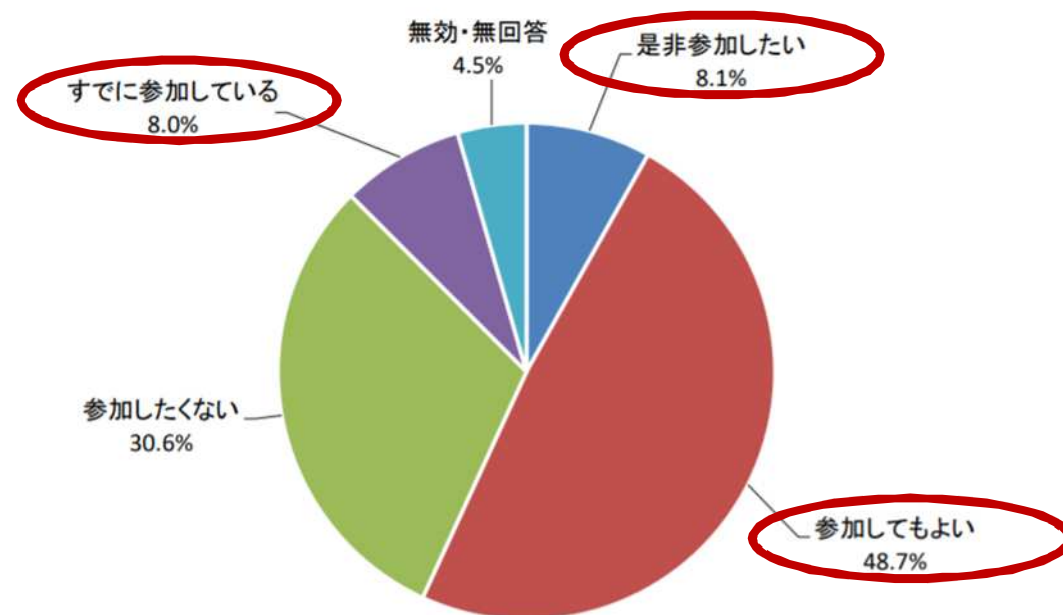


地域住民の有志で、「健康づくり活動」や「趣味等のグループ活動」を実施するとしたら

企画・運営者（お世話役）として



参加者として



企画・運営者として「参加しようと思う」人は**4割**

参加者として、「参加しようと思う」人は**6割**

健康に関する意識や**活動**意欲は高い



県営アパートを担当する民生委員より

◆ヒアリングの内容

- ・支援に関わった方を思い浮かべてください
- ・どのような方でしたか。近隣住民や地域との関わりはどうでしたか。ご家族との関わりはどうでしたか。

(1) ケース1：70代夫婦

- ・20～30年前から同じ県営アパートに住んでいて、娘も近くの小学校だった。
- ・奥様は貧血気味だと聞いていたがそれだけではなく何か持病や精神的な難しさも抱えていたのかもしれない。
- ・娘は年に数回は子どもを連れて遊びに来ていたが、子どもが来るのが辛い等「来なくてよい」と言われてしまい、切ないと泣いていた。
- ・以降、娘とは、夏・冬にお中元やお歳暮を送った際に電話でやり取りする程度の関係性になった。
- ・奥様は月に1度地域清掃に来ていたが来なくなり、異変を感じ包括とともに訪問したところ夫婦そろって倒れていた。
- ・地域清掃に出てきていたから異変を感じることができたと思っている。

(2) ケース2：70代夫婦

- ・奥様は、いつも綺麗にされていて気づかなかったが、精神的な難しさを抱え、入退院を繰り返していたようだ。
- ・旦那様が、奥様の面倒を支えてきたのだと思う。献身的な方だった。
- ・旦那様は、いつもバイクに乗り色々なところに行っては、3尾入りの魚などお得なセットを購入するとお裾分けをしてくれた。
- ・ある日また魚をもってきてくれたが、色が悪いように感じた。腰回りが痛そうだったのでコルセットを進めた。
- ・立ち去るのをドアからのぞいていたが、階段に座り辛そうにしていたので、包括に連絡し、ケアマネに来てもらった。
- ・糖尿病の進行で、病院に入院したが、それでもなお、妻へお弁当を配達していた。(バイクで)
- ・お届けするのが大好きな旦那様は、元々新聞の配達員だった。ありがとうと言われるのが嬉しそうだった。
- ・伝書鳩を飼っており、自宅を整えるために訪問したが、玄関をあけると鳩小屋がたくさん天井についていた。
- ・伝書鳩にあげる餌だと思うが、大きな袋にたくさん餌が入っていた。
- ・男性に多いことだが、伝書鳩の速さを競ったり、昔遊んだ人も多くいると思う。

(3) 民生委員の経験より

- ・県営アパートの住民に限ったことではないが、高齢になるとトイレットペーパーや鍋、瀬戸物など、同じものを何個も沢山集めてしまう傾向にある。
- ・外に出歩いた機会に買っておかねばと思うのか、買ったことを忘れてしまうのか、同じ物が集まってしまうことがよくある。
- ・複数あったり、いらぬもので綺麗なものはバザーのような形を企画するとよい。
- ・若い人へは瀬戸物を、要介護度があがり使わなくなったシルバーカーは、少し足腰が弱ってきた方へ、というお互い様の企画になった。

エピソード②



マンションと戸建てを担当する民生委員より

◆ヒアリングの内容

- ・マンションの入居者について、どのような暮らしをされているか教えてください。
- ・戸建て住宅の方で気にかけている方について教えてください

(1) 駅前マンション

- ・約40年前に建設され、入居者の多くは70代前後で、同じ時期に入居された方が多い。
- ・建設された当初はオートロックも何もなかったが、防犯がうるさくなり、外から入る際には鍵が必要になったがマンション内は、横一列自由に移動することができる。
- ・フロアごとに組長がおり、社会福祉推進委員が中心となり、パッチワークをやったり体操をやったりしている。
- ・ひとり暮らしの女性同士は、鍵を互いに渡し合い、何か緊急の時にはそれを使うことになっている。互いに安心だとのこと。
- ・マンションの下はスーパーになっており、ジムもある。毎日のように、オープン前から並びみんなでジムに通っている。
- ・子どもが市外に出ていき、夫と死別されたひとり暮らし女性が多いが、現在は、皆さん健康的である。

(2) 戸建ての住宅

①ひとり暮らし男性（70代くらい）

- ・動いているため介護保険は受けておらず、生活保護の受給者でもない。土地をもっているため、お金には困っていないようだ。
- ・部屋の片づけが苦手なのか、部屋が汚いが本人には困り感がない。
- ・毎日のように自転車で駅周辺を走っている。
- ・カフェとスーパーに行くのが日課で、お弁当を買ってきて食べているようだ。火を使うよりは安心だと思っている。

②ひとり暮らし女性

- ・耳が遠く、家族も遠くに住んでいるが、月曜日～金曜日まで毎日何かしらの病院（駅周辺のクリニック）にかかっている。

①、②ともに近くの豆腐屋さんがキーマンである。前を通るので、「今日は通ったか？」等、安否確認になっている。

駅を中心に買い物や通院等、人の流れができる地域なので、駅前にいると話したことはなくても見たことのある、どちらの方向に住んでいるのか、

わかる人も相当数いる。

ひとり暮らし男性がよくいっているカフェも高齢者が多く、よく見かける顔ぶれが多い。



移動スーパーのドライバーと利用者

◆ドライバーへのヒアリングの内容

- ・販売の時に気にかけていることを教えてください。
- ・販売エリアについてはどうですか。

(1) 到着の合図をする

- ・停車位置の近くになったら、音楽を鳴らすようにしているが近隣住民から「うるさい」と言われることもあるので最小限にしている。
- ・耳の遠い方や停車位置からお宅が遠い方へは電話で「そろそろ到着するよ」と伝えている。
- ・いつも利用されている方で近い場合はインターホンを鳴らす

(2) ゆったり見守る

- ・買うか、買わないか分からないこともあるが、見る楽しみもあるようなので、見守っている。

(3) 季節感を出す

- ・販売者にクリスマスの飾りを飾ったり、クリスマスの音楽が流れるように工夫している。足が不自由な人も多いので、季節感を感じてもらいたい。

(4) 販売エリアを拡大したい

- ・ニーズがあることが分かれば、販売エリアを拡大したい。
- ・ドライバーが少ないため、販売できないエリアもある。
- ・週5日勤務でドライバーを希望してくれる人がいたらよい。

◆利用者へのヒアリング内容（2人）

- ・いつも利用されていますか。

- ・いつも利用している。利用している近所の方へも「来たよ」と声をかけてあげる。

- ・天気の良い日には、外に出て気持ちがよい。人に会えるのも良い。

- ・ドライバーの人は、根気よく話を聞いてくれる。届かない時には取ってくれるから頼りになる。

- ・乾き物だけでなく、要冷蔵の商品や野菜、トイレットペーパーも売っている。

- ・毎回ここで、牛乳を2本買う。トンネルを越えて、スーパーまで行くのは大変。移動スーパーが来てくれて助かる。

- ・お惣菜も温かい。お昼に食べようと思う。

- ・季節によって、扱っている商品が違うのも良い。クリスマスが近いので、ここのチキンを注文した。

- ・土日に販売に来る時には、近くに住む保育園の子どもお金を握りしめてやってくる。その様子を見るのが、癒されるし、元気をもらえる。



生活支援団体が開催している「カフェテラス」

◆代表者・スタッフへヒアリングの内容

- ・活動が続けている思いを教えてください。

- ・毎週水曜日に**コーヒー 1 杯**を提供するカフェテラスを集会所で行っている。
- ・ここに来ることを楽しみにしている人がいる。開いていることに意義がある。
- ・参加者の人は80代～90代だが、お元気なのでデイサービスにも行っていない。コロナ禍でない時は、ゆっくりながらも海岸までウォーキングしたり、コミュニティセンターに行って学習講座に参加している。
※海岸およびコミュニティセンターまでは平坦で1.3km程度
- ・手先が器用な90代の方はマスクを手作りしてくださり、活動者へプレゼントしてくれる。そういうポジティブな姿勢に学ぶところが多い。
- ・生活支援の活動とお元気な方へのカフェの企画は塩梅がよい。
- ・今家に**閉じこもっている**人や、筋力低下でもここまで来れるといいな。
- ・時には、シンガーソングライターやバイオリニスト等、アーティスト活動をしている人を招いている。
- ・ある病院にはピエロができるドクターがいる。
- ・**健康**に関する講演は**興味関心が高い**。**気軽に相談**できる場が身近にあることが大事だと思う。
- ・これまで施設の傾聴ボランティアをしていたが、コロナ禍で活動がなくなった時に、「カフェテラス」を知った。コーヒーを調達してくる係をしている。40代くらいの若い人が経営してい**こ**ーヒーショップで購入している。**地元を応援**したい。
- ・福袋で買った洋服等、一度も着ていない物を整理したり、預かること場合がある。スタッフで背格好が近い人がいたら、プレゼントして、また違う日に着て行って「〇〇さんからもらったの愛用してるよ」と話すと喜んでくれるのが、また嬉しい。

◆参加者へのヒアリングの内容（5人）

- ・参加してどうですか。

- ・ここが空いてないと寂しい。
 - ・一日中家にいると人と話さず、テレビの音声だけ。
 - ・**出てくるのに大変だけどここに来ればみんなに会える。**
 - ・近くのスーパーが同じ日に安売りしているので、出かけるついでにちょうどよい。買い物して帰る。
 - ・最近、食べる量が減ってきたから、沢山は買わないけど、持って帰るのは大変。
 - ・自動車の運転は怖くなってきた／やめた
 - ・2歳のお子さんを連れてきてくれる若いママさんが参加している。
 - ・生まれた時から見ているから、私たちにとっては「ひ孫」のよう。
 - ・色々な**情報交換ができる**のも良い。
 - ・みんなと話し続けることができるように**手話を習い始めた**。
 - ・ここのコーヒーが美味しいし、毎回楽しみ
 - ・ここに参加する人はいいけど、**参加していない人**が心配。
- 子連れ参加のママさんより
- ・参加者やスタッフの人が子どもを見してくれる。「スーパー行っておいで」と言ってくれるので、自分の気分転換にもなり助かっている。
 - ・子どもにとっても良い刺激になると思っている。

令和2年度
成果報告会

実践型地域づくり人材育成プログラム

地域のつながりって どこから生まれる？

～ 人・地域・行政の視点から考える ～



(C)Amami City

2021年2月3日

鹿児島県奄美市 岩崎 拓也

プログラム参加当初の課題認識

Before

(参加前)

協議体を充実させたい。

(参加当初)

孤立を防ぎたい



個人の視点

気づき

「なぜ？」⇔「そもそも」⇔「それで」
を行ったり来たり繰り返す。



組織・地域の視点

組織を動かす

気づき

合意形成



住民参加意識

「なぜ？」⇔「そもそも」⇔「それで」
を行ったり来たり繰り返す。

気づき

手段がうまくいくため
のことを考えている。

真の課題

漠然としたものから具
体的なものへの深まり

After

地域住民と行政で対話
のできる場の設定

地域と行政が協力して
解決した成功体験を重
ねる。

繰り返す

「仮説を立てる」⇔「情報を得る」
を繰り返す。

繰り返す

対話の場の設定
積み上げのプロセス
納得のプロセス

繰り返す

「仮説を立てる」⇔「情報を得る」
を繰り返す。

	目指す姿	現状	課題	打ち手
第2回 (参考資料1)	住民一人ひとりが孤立せずに、地域・人とかかわりがもてるまち	人とのつながりをもちたいと思っているのに、もてていない。(高齢者実態調査の割合から)	(一般的に)孤立すること	生涯学習・市民協働の充実

学んだこと・考えたこと

健康に悪いから「孤立」を防ぐべきと思った。でも、「孤立」していても健康な人はいる。私は、本当に「孤立する人」を救いたいのか？私の思う「孤立」とは？

係員へのインタビュー（自分の仮説の確認）あなたの思う「孤立」とは？参考資料2・3

・「孤立」自体は悪いことではない。・誰にも声を上げない（上げられない）状況のまま亡くなる事が孤立死。・一度コミュニティで人間関係の構築を失敗すると、その後、関係の再構築がしにくく、結果的に孤立。

課題への疑問

・これって地域課題なの？・具体的な人が想いうかぶか？・具体的なファクトは？

第3回	〃	生活保護受給率の高さ 男性平均寿命の短さ	(島に帰ってきてうまいかずに)孤立すること	多くの人が共通認識を持ち、関わる こと
-----	---	-------------------------	-----------------------	------------------------

	目指す姿	現状	課題	打ち手
第3回 (資料4)	〃	生活保護受給率の高さ 男性平均寿命の短さ	(島に帰ってきてうまく いかずに) 孤立すること	多くの人が共通認識 を持ち、関わること

学んだこと・考えたこと

- ・自分が課題と思っていることは、本当にわがまちの課題？・地域によって違いがある？
- ・市営住宅に絞って考える。・アプローチの方法・できている事実から考えてみる。

係員との対話①・②・③ (自分の仮説・優先順位の確認・手段からの可能性) 参考資料5

- ・地域によって差があるのでは？ ・多いと思う ①多い or 少ない ③どこでアプローチ？
- ・転入者へのアンケート ⇒そんなことできるのか？ ②優先度は高い or 低い

住宅係・困窮者係との対話① (地区の絞り込み・多視点からのアプローチ) 参考資料6

- ・多くて深刻 ・早期発見は難しい・地域からの声は少ない・島を出る前の問題

地域へのインタビュー (できている事実から考える) 参考資料7

- ・集まりに来ていた高齢女性が最近来れなくなったことから、市役所に相談した。

情報
収集

課題への疑問 そもそも島を出る前から？ つながりが作れていない状態って？ 狭い地域

第4回	人と人 がゆるや かにつな がっている まち	島外でうまくいかずに 帰ってきて、相談に来た 人達は、検査を受けたら、 軽度の知的障害等がある ことが多い。相談できて いない。	重大な局面で助けを求め ることができない。差し 伸べても応じることがで きないこと	(地域) 意識してい ることで…見方が変 わる。(行政) きつ かけを逃さない。 (仕掛ける準備)
-----	------------------------------------	---	--	---

	目指す姿	現状	課題	打ち手
第4回 (参考資料8)	人と人がゆるやかにつながっているまち	島外でうまくいかずに帰ってきて、相談に来た人達は、検査を受けたら、軽度の知的障害等があることが多い。相談できてない。	重大な局面で助けを求めることができない。差し伸べても応じることができない。	(地域)意識していることで…見方が変わる。 (行政)きっかけを逃さない。(仕掛ける準備)
参考資料9	学んだこと・考えたこと (地域) 気づかないのはなぜ？ ↓ 視点が不足している 関わりたくないのはなぜか？ ↓ 排除の気持ち (行政) きっかけがないと気づかない ↓ でも 地域は気づいている？ ↓ または 地域が気づくことができれば 誰にとって目指す姿なの？		これは現状では？ 重大な局面で地域の人にできることがあるの？ 目指すことと現状を埋めるために取り組むべきことが課題	(地域) 見方を変えるにはどうするの？ (行政) きっかけを逃さないためにはどうするの？ 具体的な打ち手？ 自分ができること？ 変えるためには
第5回	住み慣れた地域でゆるやかに人とつながる	(個人) 相談できない人がいる。 (地域) その人に気づかない人がいる。関わりたくない人がいる。 (行政) きっかけを逃している。	地域と行政が協力して解決した成功体験を重ねる。	協議体等の地域の集まりを通じて、地域と行政が協力して解決した事例を共有する。



目指す姿

住み慣れた地域で
ゆるやかに人とつながる



課題

地域と行政が協力し
て解決した成功体験を重ねる。

現状

でも、なぜ関わりたくないのか、
本当に関わりたくないのか、考える

関わりたくない

気づかない

気づいても
恥ずかしいから
言えない

知らない
相談する場所
相談の仕方

本人

孤立

どう思っているのか考える
監視ではない

成功体験が
増える。

変化

見つける
気づく
声をかける

社会の責任
伝える

専門性
火がつく。

自己責任

気にもとめない

気づかない

気づいていても
言いにくいので言えない
関わりたくないから言わない

地域

長期視点

行政
専門性

地域・行政の
役割の理解
今でなかった
視点の気づき

家族

孤立

相談できない

恥ずかしい
迷惑をかけれない

相談しない

もう

気づかない

気づいていても
言わない 言えない

勇気をしぼって相談し
たけど何も変わらない

もう

相談したくない

噂

島
狭い地域
個人情報

打ち手 ^{学習共同体}
協議体

等の地域の集まりを
通じて、地域と行政
が協力して解決した
事例を共有する。

理想ではなく、実現させるために①

場の設定（誰とどのような形で？）

- ・協議体を現在のメンバーだけでなく、地域住民が気軽に参加できる場にする。
- ・違う地域の公民館に出向いて会合を開くことで、その地区の住民が参加しやすい場を作る。

事例（何を伝えるか？）昔の他の地域でもなく、実際に今、市内で起きている事例

（事例1）市営住宅の管理人が主催して、集まりをしている。いつも集まりに来ている住民（独居高齢者）が集まりに来れなくなった。集まりの一人が歳をとったせいだと思い、介護申請の相談をした。⇒保健師が訪問して状況を確認⇒受診⇒脱水症状

本人 相談の仕方を知らなかった。できなかった。

地域 集まりがあったから救われた。でも当たり前のことと思っている。

行政 今回のきっかけで、このような集まりがあることを知る。みんな知っていたのか？知らなかったのであれば、伝えたい！！伝えるべき。

（事例2：進行中）独居高齢者が家がわからずに立ち止まっていた状況を心配した近隣住民がその日で、他の近隣住民に話をして、情報共有した。⇒その後、区長から市へ相談。状況確認する中で、地域と行政が一緒になって住宅を片付けることなどの話し合いが行われた。

本人 周りが不安なこと・今後の準備をしなければいけないことに気づいていない。

地域 住民同士の情報共有・排除ではない・行政と一緒にする意識。でも当たり前のことと思っている。

行政 今回のきっかけで、このような人・地域（関わりたくない・排除に向かない考えや行政に伝えるだけでない考え）があることを知る。みんな知っていたのか？知らなかったのであれば、伝えたい！！伝えるべき。

理想ではなく、実現させるために②

伝えた後にどうするのか？

自分達の地域・近くに**同じような事例**がないか**考える**。

ない ↓

見えていない可能性

本当
にない
のか？

情報収集

ある ↓

同じように
できている。

なぜでき
ているのか。

〇〇〇

〇〇〇

できて
いない。

なぜできて
いないのか？

〇〇〇

〇〇〇

なぜか？

対話の場の設定

積み上げのプロセス

納得のプロセス

住民参加意識

組織・地域の視点

今の自分のできる可能性について

場の設定

2地区の協議体に関わっていることから、新しい会合を作るのではなく、現在の協議体を変えることでできる可能性がある。

事例について

PGに参加してから、気づく事例が多い。
2つ事例を挙げたが他にもある。
つまり、今まで気づいていなかっただけでたくさんある可能性がある。

継続性について（長期視点から）

協議体事務局と一緒に動くことで、担当者が変わったとしても、必要性が共感されれば、続いていく可能性がある。

PGを通じて自身やまちに起きた（起こしたい）変化

業務が多
いから
なあ～。

調べて
みよう
かなあ。

自分の
専門性について考
える。

真の課題

Before 自分が変われば組織に活か
すことができる。

環境

気づき

きっかけ
タイミング

自分

目指す姿 優先順位 現状
対話の場の設定
課題 タイミング
情報共有
合意形成

Before

行ったり来たり

After

After

がなければ、組織は動かない。

地域

市役所
がする
ことで
しょ。

自分は
関係な
い。

言われたら
協力するよ。

それぐら
いならやっ
てもいいか
なあ～。

楽しい

人の役に
立って
る！！

そもそも真ん中の状態の人は多いはず。

タイミング

きっかけ

行政が求めるもの？
入れ替わる
違う形

行ったり来たり

行ったり来たり

参考資料 1

第2回提出時

現状

人とのつながりをもちたいと
思っているのに、もてていない。

(高齢者実態調査)

地域活動やボランティア活動に参加してもいいと答えている割合が高いにもかかわらず、町内会活動、クラブ・サークル活動に参加している割合は低い。

目指す姿

黒

住民一人ひとりが孤立せずに、地域・人とかかわりがもてるまち

孤立

配偶者の喪失

原因

参加しにくい？



現役世代は、仕事や家事で忙しく、時間的、経済的に趣味の時間を持てなかったりする。

家族とのつながり

仕事での人とのつながり

子どもを通しての地域とのつながり

できない。

があるため、
必要性を感じていない。

ここで魅力のある場所や地域を提案しても効果は少ないのでは？

いざかかわろうと思っても
趣味がない。

地域の人とのかかわりがない。

退職

子どもの独立

親しくなった人の転勤

島外へ

生きがいの喪失

高齢者になる前に

参加したいと思わせる魅力ある
自治会・地域づくりが必要。
(市民協働)

現役世代の時から同じ趣味を持つ
ている人の集まりづくりが必要。
(生涯学習)

受講後の
フォロー
アップ



子どもや孫と高齢
者が交流する機会

縦割りではなく、行政
が連携し、市民も巻き
込んだ企画作りが必
要！！

参考資料 2

みんなが考える「孤立」について意見を聞いてみた。（その1）



Bさん

- ・「社会的に生きづらさに繋がりがねない状態」⇒「孤立」自体は悪いことではない。
- ・生きづらさを感じたり，生命が危ぶまれるようになると，危機的な状態になりうるのでは？

Cさん

- ・孤立とは，「自分は一人で生きている」と思いこんでいる人。
- ・社交的でも閉鎖的な人でも一人で亡くなってしばらく気づかれない事は起こりうる。
- ・「孤立が原因で亡くなった人」が孤立死ではないか。
- ・誰にも声を上げない（上げられない）状況のまま亡くなる事が孤立死。
- ・そう考えると自死はすべて孤立死ではないか。



BさんCさん共通

- ・彼らはその暮らしを望んでいたのかなあということ。そんな生き方しか選べなかったのでは。
- ・子どもの頃や青年の頃には夢や希望に溢れていたと思うと，自分の意思で酒を飲んでいるからといっても幸せではないかもしれません。
- ・自暴自棄のような生き方しかできないのは社会の責任ではないか。

参考資料 3

みんなが考える「孤立」について意見を聞いてみた（その2）（島独特の課題）

Dさん

- ・ コミュニティーの選択肢が多ければ、「趣味サークルAは私には合わなかったから趣味Bサークルに行ってみよう」ということが可能だが、そもそもの選択肢が限られていたり、噂が広まるのが早かったりして「一度人間関係構築でつまづくところに行く場所がない」状態になりやすいのでは？
- ・ 都市部だと、「別の市町村とかの離れたところのコミュニティで楽しむ」という選択肢もあるかもしれないが、離島という土地柄、「物理的に行くことのできる場所」が限られていることも選択肢が増えない要因だと思う。
- ・ 一人で楽しめる娯楽（映画、美術館、演奏会、舞台の鑑賞）も限られている。
- ・ 奄美市も「市街地は地域の繋がりが希薄になっている」と聞くと、繋がりはあるのでは？そのため逆に、一度コミュニティで人間関係の構築を失敗すると、その後、関係の再構築がしにくい。⇒結果的に孤立。つまり、属するコミュニティで誰かと揉め事を起こすとあっという間に周囲にも知られ「そのコミュニティの集まりには参加しにくい状態やコミュニティのボス的な人と関係構築ができないと「村八分状態」になりやすいのでは。



参考資料4

第3回提出時

目指す姿

住民一人ひとりが孤立せずに、地域・人とかかわりがもてるまち

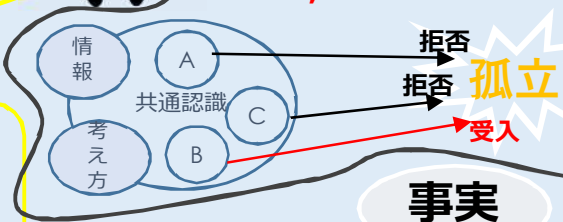
応じたくない人は別にいいが、**本当はわからない。**
 応じたくないと思われている？ 思い込んでいる？

問題

重大な局面で

助けを求めることができない。
 差し伸べても応じることができない。

多くの人が共通認識を持ち、関わることで、変わることがあるのでは？



事実

生活保護受給率の高さ
 男性平均寿命の短さ

現状
 (仮定)

高校卒業

島から出る。

挫折
 島 狭い地域 競争

夢・希望にあふれている。

家庭・仕事でうまくいかない。

孤立

島に帰ってくる。

あきらめ
 言い訳

また島でもう
 まくいかない。

島
 狭い地域

最初より人間
 関係の構築が
 難しい。

50代・60代になる

いつの間にか夢・
 希望がなくなる。

また帰ってくる。

在宅介護支
 援センター

希望する仕事も見
 つからなくなる。

検診未受診

死

行政の関わり

検診受診者

生活保護

行政の関わり

親の喪失

自暴自棄な生活

孤立

やる気がなくな
 なる。どうでもよ
 くなる。

やる気がなくな
 なる。どうでもよ
 くなる。

またうまくい
 かない

孤立

見つける

見つける

求める

求める

島外へ

まだ若い

求める
 見つける

孤立

島でもうまくい
 かない。

人間関係の
 構築の失敗

島
 狭い地域

他のコミュニティー
 が少ない。ない。

再構築するのが
 難しい。

噂

個人
 情報

参考資料 5

図を見せて意見を聞いてみた。

- ①私の仮定する人は多いと思いますか？
- ②その人達を数値化する方法は思いつきますか？
- ③どうやって探して、どこでアプローチできるか？
- ④どうすれば生きがいを取り戻せることができるか？新しい生きがいを見つけることができるか？



Aさん

- ①多いと思わない。②わからない。③税金の滞納者へのアプローチ
- ④生きがいって必要ですか？生きてるだけでいいのでは。

Dさん

- ①多いと思う。②転入者へのアンケート③転入者へ地域の集まりや仲間づくりができる情報の提供④これまで交流のなかった人と出会う。新しい情報を得ることは方法の一つでは。

意見を踏まえると

- ①数値でわからないものに力をつけるのか？②③日々の業務のある中、みんなにアプローチできるの？マンパワーが必要では？困る前にアプローチなんかできるのか？



できないことを仮定しても仕方ない ←→ 課題のような気がする

参考資料6

- ・生活困窮者支援係の担当者(前国保係) (E)とベテランCW(F)に話を聞いてみた。

I.課題について

- ・多くて深刻だと思う。(二人とも)
- ・22歳とかの就職で帰ってくるのはわかるが、40代とかで島に帰ってくる時点で何か理由がある。



II.早期発見について

- ・難しいと思う。国保で、転入の際に離職して島に帰ってきたとかわかるが、その人がその後、島でうまくいかないか？なんてわからない…
- ・親が声をあげれない(自立してほしいと思っているのに)
- ・余裕がある方が、声をあげれない。社会的な地位があればなおさらできない。



II-②.なら...困窮者が支援につながったきっかけについて聞いてみた。

- ・親・本人・病院などからの相談。地域からの声は少ないと思う。
- ・笠利地区、住用地区であれば民生委員さんからの話があったりする。でも名瀬では難しい。

III.保護率の高さについて

- ・小さな町村(自治体)地域に居れなくなって本島内の困窮者が集まってきている。
- ・大きな医療機関等(精神科病院)があるので、疾患を抱えた人たちが集まってきている。
- ・収入が低い(10万円ちょっと。)が家賃が高い(4万円ぐらい)するので、ギリギリの生活になっている人が多い。

参考資料7

- ・ 管理人に聞いてみた。

管理人さんの部屋に定期的（第3日曜日：市民清掃の後）に集まってお茶のみをしていることについて

①きっかけについて

- ・ 特にない。管理人になった時からしている。昔は、忘年会や遠足なんかしていた。
- ・ 自分が楽しみたいからやっているだけ。（面倒だなあ～と思う時ももちろんある。雨が降ればとか）
⇒なぜ続けられるか？みんなが楽しみにしている。「明日のお茶会に」とか差し入れを持ってこられるとやらざるを得ない。（笑）

②どのようなことをしているか？

- ・ 市民清掃が終わった後に、お茶を飲んでお菓子を食べて、話しをしているだけ。
- ・ 野菜や花を育てて大きくなったら、じゃんけんして勝った順に持っていつている。



③何人ぐらい？

- ・ 市民清掃に参加している10人ぐらい（世帯は24世帯）。他の人は？もちろん出てこない人は出てこないよ。別に「無理に出てこい」とは言わない。

④他の14世帯と話す機会はあるか？

- ・ 以前は共益費を集めて回っていたが、今は封筒を配って、ポストに入れるようになったので、話しをする機会は減っている。ただ、駐車場の車を見れば、居るか居ないかわかる。

参考資料 8

第 4 回提出時

現状

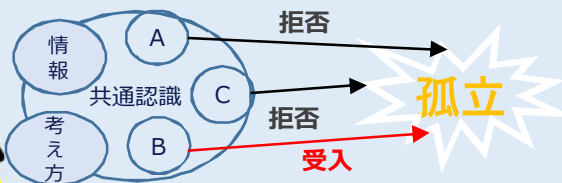
これって
自分にも

うまくいかに帰ってきて、相談に来た人達。
検査を受けたら、軽度の知的障害等があっ
たりする。

目指す姿

人と人がゆるやかに
つながっている街

多くの人が共通認識を持ち、関わるこ
とで、変わることがあるのでは？



課題

重大な局面で

助けを求めることができない。
差し伸べても応じることをしない。

地域

アンテナを張っておく（意識している）ことで…
見方が変わる。でも監視ではない。
早く対応することで、地域もいい状態が保
たれる。

行政

きっかけを逃さない。（仕掛ける準備）

誰かとつながっていることが大事

行政だけでは無理。（きっかけがないと地
域の変化に気づくのは難しい。）

地域だけでは無理。（専門的な対応は難
しい。）

それだけでも全然違う

つまり

島から出る前から、実は、軽度の知的障害等
があった可能性

普通の高校を卒業する。

なぜ？

気づかない。

本人

気づいても言えない。

恥ずかしい。

島
狭い地域

帰ってきても…
なぜ、うまくいかなかったのか
わからない。

またうまくいかない。

もし…

わかっていたらどうなったか？

他の困りごとでも相談しなくなる。

孤立

積み重ね

気づいていても
言わずに…
言えずに…

家族

気づかない。

相談しない。

もう…

相談できない。

恥ずかしい。

迷惑をかけれない。

勇気をしぼって相談したけど…
何も変わらない。

もう…

相談したくない。

気づいていても
言わずに…
言えずに…

気づかない。

気にとめずに…

気をつけたり、考え方を変
えたりしたのでは？

参考資料9

これまでの検討を踏まえて 現時点での設定		なぜ？ (裏付ける具体的事実とともに、文章で説明)	Fact
目指す姿	住み慣れた地域でゆるやかに人とつながる。	(なぜそれを目指したいのか) 問題を認識しながら、相談できない人、相談しない人が多いと感じるから。 相談することは恥ずかしいことではなく、生きるためには絶対必要なことで、 相談する誰かが必要だから。	狭い地域のため情報 (噂)が広まるのが 早いため、誰にも相 談できない。
	(目指す姿に対する現状) ・ 困難を抱える個人の視点 相談することができない。 援助を差し伸べても応じることをしない。	(なぜそうなっているのか) ・ 個人としては、問題となっていることを、恥ずかしくて相談できない場合、 相談する場所・相談の仕方がわからない場合、本人自身も問題に気づいていな い場合、あきらめの思いがある。	若年者調査 55.6% 一般高齢者調査 35.1% が何かあった時に家 族や友人・知人以外 に相談する相手がい ない。 後々問題になった ケースは、実は以前 に生活保護の相談に 来たり、なんらかの 関わりがあった人達 が多い。
	・ それを支える人や地域全体の視点 ・ それを支える人（家族） 本人が問題を抱えていることに気づかない。 地域に相談できる人がいない。できない。 ・ それを支える人（地域） 問題のありそうな世帯をうっすら把握していながら気づいて も何も言わない。 気にもとめないから、気づかない。	・ 家族についても同じく、本人の問題に気づいていない場合、気づいても本人 に言えない場合、本人が受け入れられない場合、地域に恥ずかしくて相談できない 場合、地域には迷惑をかけられないという思いがある。 ・ 地域から個人については、気づいていてもかかわりたくない場合、視点が不 足しているために気づかない場合がある。	
	・ それを支える人（行政） 働きかけるタイミング・きっかけを逃している。 その後のフォローをしていない。	行政目線のため、本人が勇気を絞って相談に来たことに気づいていない。 対応ができなかった場合や次の相談先につないだ後の経過を確認していない。	
課題	(目指す姿と現状のギャップを埋めるために取り組むべきこと) ・ 地域と行政が協力して解決した成功体験を重ねる。	(なぜそう考えたのか) ・ 地域の人には、成功体験を重ねることで、自分達がしていることが正しいこと に気づく。そして、自分達にしかできない自分達の存在感や価値に気づくこと ができ、さらに価値感を高めようと考えたから。 ・ 行政は、行政目線では気づけなかった地域の視点に気づくことができ、地域 の視点を持てると考えたから。	
	(どこから手をつけるか、それによって誰の何が変わっていくの か) 協議体等の地域の集まりを通じて、地域と行政が協力して解決 した事例を伝える。	(なぜそれが有効だと思うのか) 解決事例を伝えることで、地域の人たちができること、行政がすることの役割 を理解することができるから。 解決事例を伝えることで、今まで見えていなかった人たち（困っているかもし れない人たち）に気づく（専門的な視点に近づく）ことができると考えたから。	
打ち手			

令和2年度 実践型地域づくり人材育成プログラム
成果報告会

住み慣れた場所で自分らしく幸せに暮らすために 地域の特性に合わせた支援とは

2021年2月3日

静岡県沼津市

和泉百映



【プログラム参加当初の課題認識】

〔当初〕

「生活支援体制整備事業」開始3年目。

〔課題〕

事業の進捗状況が不明確。市と生活支援コーディネーター（S C）との連携が図れない。

地域包括支援センター（包括）とS Cとの役割分担が曖昧
私のやるべきことは何か？

〔P Gでの発見〕

自分が考えることは課題と言えないのではないか？

（自分自身の悩みを課題と考えているだけではないのか）



「課題」 = 「現状」 = 「問題点」

【気づいたこと→ そこから考えたこと】

- 私がわからないこと、知らないことが多すぎる。
- 情報を整理すること。それにより深掘りでき、思考が進む。
- 何が強みかを整理するとともに、強みは弱みでもあることを意識する。
- 仮説を立て、考えることが重要。
- 「課題とは何か？」考えることはとても難しく、一人で何度も何度も悩む。現象は常に変化するためたどり着かない。
- 解くべき課題を見極めようとする習慣をつける。

【課題認識への変化】

- 課題は自分の悩みではない。
- 課題は地域住民を中心に考えることである。
- 地域住民が現在の場所で生活し続けていくために不足しているものを補うことが課題である。

- 
- ・ 地域ケア会議の開催状況
 - ・ S Cの考え
 - ・ 包括が見る地域の現状
 - ・ 圏域ごとの高齢化率
 - ・ 高齢者の独居数の推移

を調査した。

【目指す姿】

住み慣れた場所で、高齢者が自分らしく安心して幸せに暮らすために、地域ごとのフォーマルサービスの格差を、地域特性に合わせたインフォーマルサービスを組み合わせて埋めることで地域での生活を支え合うこと。

【現状】

- フォーマルサービス・インフォーマルサービスに地域間格差がある。
- インフォーマルサービスを活用することが難しく、フォーマルサービスに頼りがちな包括やS Cも存在する。
- 民生委員、自治会役員などインフォーマルサービスの必要性を感じ始めている地域住民が増えている。

【課題】

- インフォーマルサービスのある地域においては、S Cと包括が連携し活用を促進する。
- 他地域のインフォーマルサービスを参考にし、地域に合わせたインフォーマルサービスを創設する。

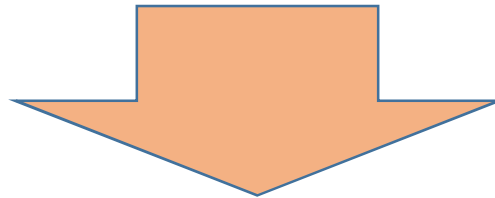
【打ち手】

- 高齢者の地域の困りごとを具体的に理解する。
- S Cと包括のそれぞれの活動を知る連絡会等を開催する。
- 地域ケア会議から出た課題を分析する。
- 各地域に好事例を持ち帰り、地域住民と共に地域の実情にあった活用法の検討をする。

これらを繰り返し、地域で生活する高齢者の生活に必要な支援に繋げる。

【P Gを通じて自身に起きた変化】

- 誰の何のために仕事をしているのか考える。
- 情報を集めるようにする。
- 机上だけでなく、肌で感じるため足を運び「対話」する。



「課題解決」 = 何気ない一言を大切にする

参考資料

これまでの検討を踏まえて 現時点での設定		なぜ？ (裏付ける具体的事実とともに、文章で説明)
目指す姿	住み慣れた地域で高齢者が自分らしく安心して幸せに暮らせること。 地域ごとのフォーマルサービスの格差を、地域特性に合わせたインフォーマルサービスの組み合わせにより埋めることで地域での生活を支え合うこと。	- なぜそれを目指したいのか 1. 誰もがいずれ老いる中、自分が暮らしたい場所で、自分らしく生活ができることが、本当の幸せであるとする。 2. 元気なときは地域で生活できていても、フォーマルサービスが充実していないために、住み慣れた地域を離れることを選択せざるを得ない地域がある。 3. 在宅で最期を迎えることを希望する高齢者は、家族だけでなく、医師や薬剤師、ケアマネ等の地域資源が支え、関わった方々も本人の意思を尊重できたことに幸せを感じる。 4. それができず悲しい思いをする方々がいなくなると良いと思うため。
現状	(目指す姿に対する現状) 1. フォーマルサービスに地域間格差がある。 インフォーマルサービスも地域間格差がある。 2. インフォーマルサービスを活用することが難しく、フォーマルサービスに頼りがちな包括やSCもいる。 3. 民生委員、自治会役員などインフォーマルサービスの必要性を感じ始めている地域住民が増えている。	- なぜそうなっているのか 1. 立地的にフォーマルサービスの設立に至っていない。フォーマルサービスが不足している地域に、必要性の検討が不足している。サービスが不足している地域ほど情報量が少なく、インフォーマルサービスで補いたい取り組みが進まない。 2. 支援する側がフォーマルサービスの利用に頼っている。インフォーマルサービスの活用方針として明確になってない部分があり、必要なインフォーマルサービスの創設に至っていない地域もある。 3. 地域ケア会議では、独居や認知症高齢者が孤立せず閉じこもらず自立した生活をするには、家族だけでなく、地域を含めどのように支えるか検討されている。また、地域によっては、民生委員や自治会が、独居高齢者に手紙を出したり、ボランティアによる定期的な訪問がなされ、困ったときの連絡先として包括支援センターを紹介するなど、地域でできる支援に取り組んでいるが、中には地域のインフォーマルサービスに関心を持たない利用者や家族もいる。インフォーマルの活用ができない実態の中には、需要と供給が一致しない地域もある。SCと包括が協働し始めているが、全体の支え合いの浸透に時間を要している。

参考資料

これまでの検討を踏まえて
現時点での設定

なぜ？
(裏付ける具体的事実とともに、文章で説明)

課題

- (目指す姿と現状のギャップを埋めるために取り組むべきこと)
- インフォーマルサービスのある地域においては、ＳＣと包括が連携し活用を促進する。
 - 他地域のインフォーマルサービスを参考にし、地域に合わせたインフォーマルサービスを創設すること。

- ・ なぜそう考えたのか
- ＳＣと包括の連携が進むことは、様々な地域資源を巻き込むことにつながり、地域ごと特性は埋められなくても、それぞれの地域が必要とする支援を見出すことで、地域間格差を減らすことができると考える。

打ち手

(どこから手をつけるか、それによって誰の何が変わっていくのか)

ＳＣと包括のそれぞれの活動を知る連絡会等を開催する。
地域ケア会議から出た課題を分析する。
各地域に好事例を持ち帰り、地域住民と共に地域の実情にあった活用法を検討する。

- ・ なぜそれが有効だと思うのか
- ＳＣと包括のそれぞれが把握している地域の困りごとを双方が具体的に理解することで、それぞれが自分事として考え、地域で生活する高齢者に寄り添い、望む生活に近づくために必要な生活支援について共に考える機会となると思う。